



はじめに

ここでは、Cisco Nexus 6000 シリーズ NX-OS 基礎コマンド リファレンスの対象読者、構成、および表記法について説明します。また、関連マニュアルの入手方法についても説明します。

この前書きは、次の項で構成されています。

- [対象読者、ページ 1](#)
- [表記法、ページ 1](#)
- [関連資料、ページ 2](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート、ページ 3](#)

対象読者

このマニュアルは、Cisco NX-OS デバイスの設定と保守を行う、経験豊かなユーザを対象としています。

表記法

コマンドの説明では、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは太字で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x y z}	必ずどれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。

出力例では、次の表記法を使用しています。

screen フォント	スイッチに表示される端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
<i>イタリック体の screen フォント</i>	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコ(<>)で囲んで示しています。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符(!)またはポンド記号(#)がある場合には、コメント行であることを示します。

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。



(注) 「注釈」を意味します。役立つ情報やこのマニュアルに記載されていない参照資料を紹介しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

関連資料

Cisco Nexus 6000 シリーズ スイッチのドキュメンテーションは、次の URL で入手できます。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps12806/tsd_products_support_series_home.html

マニュアル セットは次のカテゴリに分けられます。

リリース ノート

リリース ノートは、次の URL から入手できます。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps12806/prod_release_notes_list.html

インストール ガイドおよびアップグレード ガイド

インストール ガイドおよびアップグレード ガイドは、次の URL から入手できます。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps12806/prod_installation_guides_list.html

コマンド リファレンス

コマンド リファレンスは、次の URL で入手できます。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps12806/prod_command_reference_list.html

テクニカル リファレンス

テクニカル リファレンスは、次の URL から入手できます。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps12806/prod_technical_reference_list.html

コンフィギュレーション ガイド

コンフィギュレーション ガイドは、次の URL から入手できます。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps12806/products_installation_and_configuration_guides_list.html

エラー メッセージおよびシステム メッセージ

システム メッセージ リファレンス ガイドは、次の URL で入手できます。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps12806/products_system_message_guides_list.html

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載漏れに関する報告は、nexus6k-docfeedback@cisco.com に送信してください。皆様のフィードバックをお待ちしております。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用、サービス要求の送信、追加情報の収集の詳細については、『[What's New in Cisco Product Documentation](#)』を参照してください。

新しく作成された、または改訂されたシスコのテクニカル コンテンツをお手元に直接送信するには、『[What's New in Cisco Product Documentation](#)』RSS フィードをご購読ください。RSS フィードは無料のサービスです。



B コマンド

この章では、B で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

banner motd

ユーザが Cisco Nexus 6000 スイッチにログインすると表示される Message-of-The-Day (MoTD) バナーを設定するには、**banner motd** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

banner motd delimiter message delimiter

no banner motd

構文の説明

<i>delimiter</i>	デリミタ文字。メッセージの最初と最後を示します。メッセージ内では使用しないでください。" または % は、区切り文字に使用しないでください。スペースは機能しません。
<i>message</i>	メッセージのテキストを指定します。テキストは英数字で、大文字と小文字が区別されます。また、特殊文字を含めることができます。選択した区切り文字を含めることはできません。テキストの最大長は 80 文字で、最大行数は 40 行です。

コマンド デフォルト

デフォルトの MoTD 文字列は「Nexus 6000 Switch」です。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

複数行の MoTD バナーを作成するには、区切り文字を入力する前に **Enter** キーを押して、新しい行を開始します。40 行までのテキストを入力できます。

例

次に、1 行の MoTD バナーを設定する例を示します。

```
switch(config)# banner motd #Unauthorized access to this device is prohibited!#
```

次に、複数行の MoTD バナーを設定する例を示します。

```
switch(config)# banner motd #Welcome Authorized Users Unauthorized access prohibited!#
```

次に、デフォルトの MoTD バナーに戻す例を示します。

```
switch(config)# no banner motd
```

関連コマンド

コマンド	説明
show banner motd	MoTD バナーを表示します。

boot

Cisco Nexus 6000 キックスタートまたはシステム ソフトウェア イメージのブート変数を設定するには、**boot** コマンドを使用します。ブート変数をクリアするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
boot {kickstart | system} [bootflash:] [//server/] [directory] filename
```

```
no boot {kickstart | system}
```

構文の説明

kickstart	キックスタート イメージを設定します。
system	システム イメージを設定します。
bootflash:	(任意)ブートフラッシュ ファイル システムの名前を指定します。
<i>//server/</i>	(任意)サーバの名前を指定します。有効な値は <i>///</i> 、 <i>//module-1/</i> 、 <i>//sup-1/</i> 、 <i>//sup-active/</i> 、または <i>//sup-local/</i> です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意)ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	キックスタート イメージまたはシステム イメージのファイル名を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。



(注)

bootflash://server/directory/filename 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン(:)とスラッシュ(/)で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Cisco NX-OS ソフトウェアは、起動時にブート変数を使用してイメージをロードします。リロードする前に、スイッチに正しいイメージをコピーする必要があります。



(注)

Cisco NX-OS をアップグレードまたはダウングレードするために推奨されない方法でブート変数を変更すると、設定が失われたりシステムが不安定になる可能性があります。

例

次に、システムのブート変数を設定する例を示します。

```
switch(config)# boot system bootflash:n6000.bin
```

次に、キックスタートのブート変数を設定する例を示します。

```
switch(config)# boot kickstart bootflash:n6000-kickstart.bin
```

次に、システムのブート変数をクリアする例を示します。

```
switch(config)# no boot system
```

次に、キックスタートのブート変数をクリアする例を示します。

```
switch(config)# no boot kickstart
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy	ファイルをコピーします。
show boot	ブート変数の設定情報を表示します。



C コマンド

この章では、C で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

cd

デバイス ファイル システムの現在の作業ディレクトリを変更するには、**cd** コマンドを使用します。

```
cd [filesystem:] [//server/] directory
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意)ファイルシステムの名前を指定します。有効な値は bootflash または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意)サーバの名前を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (<i>//</i>) を含む必要があります。
<i>directory</i>	変更先ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) *filesystem://server/directory* 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

現在の作業ディレクトリを確認するには、**pwd** コマンドを使用します。

例

次に、現在のファイル システム上で現在の作業ディレクトリを変更する例を示します。

```
switch# cd my-scripts
```

次に、別のファイル システム上に現在の作業ディレクトリを変更する例を示します。

```
switch# cd volatile:
```

関連コマンド

コマンド	説明
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

clear cli history

コマンドの履歴をクリアするには、**clear cli history** コマンドを使用します。

clear cli history

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

コマンドライン インターフェイス (CLI) で入力したコマンドの履歴を表示するには、**show cli history** コマンドを使用します。

例

次に、コマンドの履歴をクリアする例を示します。

```
switch# clear cli history
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cli history	コマンドの履歴を表示します。

clear cores

コア ファイルをクリアするには、**clear cores** コマンドを使用します。

clear cores

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド 履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

コア ファイルに関する情報を表示するには、**show system cores** コマンドを使用します。

例

次に、コア ファイルをクリアする例を示します。

```
switch# clear cores
```

関連コマンド

コマンド	説明
show system cores	コア ファイル名を表示します。
system cores	コア ファイル名を設定します。

clear debug-logfile

デバッグ ログ ファイルの内容をクリアするには、**clear debug-logfile** コマンドを使用します。

clear debug-logfile *filename*

構文の説明	<i>filename</i>	クリアするデバッグ ログ ファイルの名前を指定します。
-------	-----------------	-----------------------------

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	EXEC モード
----------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、デバッグ ログ ファイルをクリアする例を示します。

```
switch# clear debug-logfile syslogd_debugs
```

関連コマンド	コマンド	説明
	debug logfile	デバッグ ログ ファイルを設定します。
	debug logging	デバッグのロギングをイネーブルにします。
	show debug logfile	デバッグ ログ ファイルの内容を表示します。

clear install failure-reason

ソフトウェアをインストールできなかった理由をクリアするには、**clear install failure-reason** コマンドを使用します。

clear install failure-reason

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、ソフトウェアをインストールできなかった理由をクリアする例を示します。

```
switch# clear install failure-reason
```

関連コマンド

コマンド	説明
show install all	ソフトウェア インストールのステータス情報を表示します。

clear license

ライセンスをアンインストールするには、**clear license** コマンドを使用します。

clear license *filename*

構文の説明

<i>filename</i>	アンインストールするライセンス ファイルを指定します。
-----------------	-----------------------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、特定のライセンスをアンインストールする例を示します。

```
switch# clear license fm.lic
```

関連コマンド

コマンド	説明
show license	ライセンス情報を表示します。

clear user

特定のユーザをログアウトさせるには、**clear user** コマンドを使用します。

clear user *username*

構文の説明

<i>username</i>	ログアウトさせるユーザの名前を指定します。
-----------------	-----------------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、特定のユーザをログアウトさせる例を示します。

```
switch# clear user admin
```

関連コマンド

コマンド	説明
show users	現在、スイッチにログインしているユーザを表示します。

cli var name

端末セッションのコマンドライン インターフェイス (CLI) 変数を定義するには、**cli var name** コマンドを使用します。CLI 変数を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cli var name *variable-name variable-text*

no cli var name *variable-name*

構文の説明	
<i>variable-name</i>	変数名を指定します。この名前は 31 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。
<i>variable-text</i>	変数のテキストを指定します。この名前は 200 文字以下の英数字で、スペースを含むことができます。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 次の構文を使用して CLI 変数を参照できます。

```
$(variable-name)
```

次のインスタンスに変数を使用できます。

- コマンド スクリプト
- ファイル名

変数の定義内では、別の変数を参照できません。

Cisco NX-OS ソフトウェアは、TIMESTAMP という定義済みの変数を提供しており、これを使用して時刻を挿入できます。TIMESTAMP CLI 変数は、変更することも削除することもできません。

CLI 変数の定義は変更できません。変更する場合は、変数を削除した後に、新しい定義で再作成する必要があります。

例 次に、CLI 変数を定義する例を示します。

```
switch# cli var name testvar interface ethernet 1/3
```

次に、CLI 変数を参照する例を示します。

```
switch# show $(testvar)
```

次に、TIMESTAMP 変数を参照する例を示します。

```
switch# copy running-config > bootflash:run-config-$(TIMESTAMP).cnfg
```

次に、CLI 変数を削除する例を示します。

```
switch# cli no var name testvar
```

関連コマンド

コマンド	説明
run-script	コマンド スクリプトを実行します。
show cli variables	CLI 変数を表示します。

clock protocol

プロトコルにクロックの同期プロトコルを設定するには、**clock protocol** コマンドを使用します。クロックのプロトコルを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock protocol {none | ntp}

no clock protocol {none | ntp}

構文の説明	none	クロックを手動で設定できるように指定します。
	ntp	クロックがネットワーク タイム プロトコル(NTP)に設定されるように指定します。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	このコマンドにライセンスは必要ありません。	
例	次に、クロックの同期プロトコルを NTP に設定する例を示します。 <pre>switch# configure terminal switch(config)# clock protocol ntp switch(config)#</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	show running-config	実行システム コンフィギュレーション情報を表示します。

clock set

手動で Cisco Nexus 6000 スイッチのクロックを設定するには、**clock set** コマンドを使用します。

clock set *time day month year*

構文の説明

<i>time</i>	時刻を指定します。指定する形式は <i>HH:MM:SS</i> です。
<i>day</i>	日(月の)を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 31 です。
<i>month</i>	月を指定します。有効値は January、February、March、April、May、June、July、August、September、October、November 、および December です。
<i>year</i>	年を指定します。指定できる範囲は 2000 ~ 2030 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、NTP サーバなどの外部のクロックソースとスイッチを同期できないときに使用します。

例

次に、手動でクロックを設定する例を示します。

```
switch# clock set 12:00:00 04 July 2008
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	クロックの時刻を表示します。

clock summer-time

サマータイム(夏時間)オフセットを設定するには、**clock summer-time** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock summer-time *zone-name start-week start-day start-month start-time end-week end-day end-month end-time offset-minutes*

no clock summer-time

構文の説明

<i>zone-name</i>	タイム ゾーンの文字列を指定します。タイム ゾーン文字列は 3 文字の文字列です。
<i>start-week</i>	サマータイム オフセットを開始する週が、その月の何番目の週であるかを指定します。指定できる範囲は 1 ~ 5 です。
<i>start-day</i>	サマータイム オフセットを開始する曜日を指定します。有効値は Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, Saturday 、または Sunday です。
<i>start-month</i>	サマータイム オフセットを開始する月を指定します。有効値は January, February, March, April, May, June, July, August, September, October, November 、および December です。
<i>start-time</i>	サマータイム オフセットを開始する時刻を指定します。指定する形式は HH:MM です。
<i>end-week</i>	サマータイム オフセットを終了する週が、その月の何番目の週であるかを指定します。指定できる範囲は 1 ~ 5 です。
<i>end-day</i>	サマータイム オフセットを終了する曜日を指定します。有効値は Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, Saturday 、または Sunday です。
<i>end-month</i>	サマータイム オフセットを終了する月を指定します。有効値は January, February, March, April, May, June, July, August, September, October, November 、および December です。
<i>end-time</i>	サマータイム オフセットを終了する時刻を指定します。指定する形式は HH:MM です。
<i>offset-minutes</i>	クロックのオフセットを分単位で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 1440 です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション モード
インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、サマータイムまたは夏時間のオフセットを設定する例を示します。

```
switch(config)# clock summer-time PDT 1 Sunday March 02:00 5 Sunday November 02:00 60
```

次に、サマータイムをデフォルト オフセットに戻す例を示します。

```
switch(config)# no clock summer-time
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	クロックのサマータイム オフセット設定を表示します。

clock timezone

協定世界時(UTC)からのタイムゾーンオフセットを設定するには、**clock timezone** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock timezone *zone-name* *offset-hours* *offset-minutes*

no clock timezone

構文の説明		
<i>zone-name</i>		ゾーン名を指定します。ゾーン名は、タイムゾーンの略語(PST、EST など)である 3 文字の文字列です。
<i>offset-hours</i>		UTC からのオフセット時間数を指定します。指定できる範囲は -23 ~ 23 です。
<i>offset-minutes</i>		UTC からのオフセット分数を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 59 です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション モード
インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、デバイスのクロックに UTC からのオフセットを設定するときに使用します。

例 次に、UTC からのタイムゾーンオフセットを設定する例を示します。

```
switch(config)# clock timezone PST -8 0
```

次に、タイムゾーンオフセットをデフォルトに戻す例を示します。

```
switch(config)# no clock timezone
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show clock	クロックの時刻を表示します。

configure session

コンフィギュレーション セッションを作成または変更するには、**configure session** コマンドを使用します。

configure session *name*

構文の説明

<i>name</i>	セッションの名前を指定します。名前は、最大 63 文字の英数字で指定します。大文字と小文字は区別されます。
-------------	---

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、コンフィギュレーション セッションを作成する例を示します。

```
switch# configure session MySession
switch(config-s)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show configuration session	コンフィギュレーション セッションに関する情報を表示します。

configure terminal

コンフィギュレーション モードを開始するには、**configure terminal** コマンドを使用します。

configure terminal

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、コンフィギュレーション モードを開始するために使用します。このモードでのコマンドは、入力 (**Enter** キー/**CR** を使用) と同時に実行コンフィギュレーション ファイルに書き込まれます。

configure terminal コマンドを入力した後は、システム プロンプトが **switch#** から **switch(config)#** に変わり、スイッチがコンフィギュレーション モードであることを示します。コンフィギュレーション モードを終了して EXEC モードに戻るには、**end** と入力するか **Ctrl+Z** を押します。

変更した設定を表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。

例

次に、コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルとして保存します。
end	コンフィギュレーション セッションを終了して、EXEC モードに移行します。
exit (グローバル)	現在のコンフィギュレーション モードを終了して、その次に高度なコンフィギュレーション モードへと移行します。
show running-config	現在の実行コンフィギュレーションを表示します。

copy

コピー元からコピー先へとファイルをコピーするには、**copy** コマンドを使用します。

copy *source-url destination-url*

構文の説明

<i>source-url</i>	コピー元のファイルまたはディレクトリの場所の URL (または変数) を指定します。ファイルがダウンロードされるか、アップロードされるかに応じて、コピー元がローカルの場合とリモートの場合があります。 詳細については、「使用上のガイドライン」セクションを参照してください。
<i>destination-url</i>	コピーしたファイルまたはディレクトリのコピー先 URL (または変数) を指定します。ファイルがダウンロードされるか、アップロードされるかに応じて、コピー先がローカルの場合とリモートの場合があります。 詳細については、「使用上のガイドライン」セクションを参照してください。

コマンド デフォルト

コピー先ファイルのデフォルト名はコピー元ファイル名です。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

copy コマンドを使用すると、1 つの場所から別の場所へファイル (システム イメージまたはコンフィギュレーション ファイルなど) をコピーできます。コピー元ファイルとそのコピー先は、Cisco NX-OS ファイル システムの URL で指定します。これにより、ローカルとリモートのどちらのファイルの場所でも指定できます。使用するファイル システム (ローカル メモリのコピー元またはリモート サーバなど) により、コマンドで使用する構文が決定されます。

コマンドラインに、必要なコピー元とコピー先のすべての URL 情報と使用するユーザ名を入力できます。または、**copy** コマンドを入力すると、CLI から必要な情報の入力を求められます。

コピー プロセス全体は、ネットワーク条件やファイルのサイズに応じて数分間かかる場合があります。また、それぞれのプロトコルおよびネットワークによっても異なります。

ファイル システムの URL プレフィクス キーワード (**bootflash** など) の後にはコロン (:) が必要です。

ftp:、**scp:**、**sftp:** および **tftp:** の URL 構文では、サーバは、IPv4 アドレスまたはホスト名のいずれかです。

コピー元およびコピー先 URL の形式

コピー元とコピー先の URL の形式は、ファイルまたはディレクトリの場所によって異なります。Cisco NX-OS ファイル システムの構文 (*filesystem:[/directory][/filename]*) に従ったディレクトリ名またはファイル名の CLI 変数を入力できます。

次の表は、ファイル システムのタイプごとの URL プレフィクス キーワードのリストです。URL プレフィクス のキーワードを指定しない場合、スイッチは、現在のディレクトリ内のファイルを検索します。

表 1 は、書き込み可能なローカル ストレージ ファイル システムの URL プレフィクス キーワードのリストです。表 2 は、リモート ファイル システムの URL プレフィクス キーワードのリストです。表 3 は、書き込み不可のファイル システムの URL プレフィクス キーワードのリストです。

表 1 書き込み可能なローカル ストレージ ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
bootflash:[//server/]	ブートフラッシュ メモリのコピー元またはコピー先の URL を指定します。 <i>server</i> 引数の値は module-1 、 sup-1 、 sup-active 、または sup-local です。
volatile:[//server/]	デフォルトの内部ファイル システムのコピー元またはコピー先の URL を指定します。このファイル システムに格納されたファイルまたはディレクトリはすべて、スイッチのリブート時に消去されます。 <i>server</i> 引数の値は module-1 、 sup-1 、 sup-active 、または sup-local です。

表 2 リモート ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
ftp:	FTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL を指定します。このエイリアスの構文は次のとおりです。 ftp:[//server][//path]/filename
scp:	セキュア シェル (SSH) をサポートし、Secure Copy Protocol (SCP) を使用してファイルのコピーを受け入れるネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL を指定します。このエイリアスの構文は次のとおりです。 scp:[//[username@]server][//path]/filename
sftp:	SSH FTP (SFTP) ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL を指定します。このエイリアスの構文は次のとおりです。 sftp:[//[username@]server][//path]/filename
tftp:	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL を指定します。このエイリアスの構文は次のとおりです。 tftp:[//server[:port]][//path]/filename

表 3 特殊ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
core:	コア ファイルのローカル メモリを指定します。コア ファイルをコア ファイル システムからコピーできます。
debug:	デバッグ ファイルのローカル メモリを指定します。デバッグ ファイルをデバッグ ファイル システムからコピーできます。
log:	ログ ファイルのローカル メモリを指定します。ログ ファイルをログ ファイル システムからコピーできます。

表 3 特殊ファイル システムの URL プレフィクス キーワード (続き)

キーワード	コピー元またはコピー先
modflash:	mod ファイルの外部メモリを指定します。mod ファイルを modflash ファイル システムからコピーできます。
system:	ローカル システム メモリを指定します。実行コンフィギュレーションをシステム ファイル システムへ、またはシステム ファイル システムからコピーできます。システム ファイル システムの使用は、コマンドで <code>running-config</code> ファイルを参照するときは任意です。
usb1:	外部 USB フラッシュ メモリ デバイスのコピー元またはコピー先の URL。ブートフラッシュにキックスタート イメージとシステム イメージをコピーできます。 (注) これは、Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチだけに適用できます。
volatile:	ローカル揮発性メモリを指定します。揮発性ファイル システムへ、または揮発性ファイル システムからファイルをコピーできます。揮発性メモリのファイルはすべて、物理デバイスがリロードすると失われます。

ここでは、次の操作に関する使用ガイドラインを示します。

- [サーバからブートフラッシュ メモリへのファイルのコピー、ページ 28](#)
- [サーバから実行コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー、ページ 28](#)
- [サーバからスタートアップ コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー、ページ 29](#)
- [サーバ上の実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーションのコピー、ページ 29](#)

サーバからブートフラッシュ メモリへのファイルのコピー

イメージをサーバからローカル ブートフラッシュ メモリにコピーするには、`copy source-url bootflash:` コマンド (`copy tftp:source-url bootflash:` など) を使用します。

サーバから実行コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

ネットワーク サーバから、デバイスの実行コンフィギュレーションにコンフィギュレーション ファイルをダウンロードするには、`copy {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}source-url running-config` コマンドを使用します。設定は、コマンドを CLI に入力した場合と同様に、実行コンフィギュレーションに追加されます。その結果、コンフィギュレーション ファイルは、以前の実行コンフィギュレーションとダウンロードされたコンフィギュレーション ファイルを組み合わせたものとなります。以前の実行コンフィギュレーションより、ダウンロードされたコンフィギュレーション ファイルが優先して適用されます。

ホスト コンフィギュレーション ファイルまたはネットワーク コンフィギュレーション ファイルをコピーできます。特定の 1 つのネットワーク サーバに適用するコマンドを含むホスト コンフィギュレーション ファイルをコピーして読み込むには、`host` のデフォルト値を受け入れます。ネットワーク上のすべてのネットワーク サーバに適用するコマンドを含むネットワーク コンフィギュレーション ファイルをコピーして読み込むには、`network` を入力します。

サーバからスタートアップ コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

コンフィギュレーション ファイルを、ネットワーク サーバからスイッチのスタートアップ コンフィギュレーションにコピーするには、**copy {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}source-url startup-config** コマンドを使用します。これらのコマンドにより、スタートアップ コンフィギュレーション ファイルが、コピーしたコンフィギュレーション ファイルに置き換えられます。

サーバ上の実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーションのコピー

FTP、SCP、SFTP、または TFTP を使用するネットワーク サーバに現在のコンフィギュレーション ファイルをコピーするには、**copy running-config {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}destination-url** コマンドを使用します。ネットワーク サーバにスタートアップ コンフィギュレーション ファイルをコピーするには、**copy startup-config {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}destination-url** コマンドを使用します。コピーしたコンフィギュレーション ファイルのコピーはバックアップとして使用できます。

例

次に、同じディレクトリ内にファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 file2
```

次に、別のディレクトリにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 my-scripts/file2
```

次に、別のファイル システムにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 bootflash:
```

次に、別のスーパーバイザ モジュールにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 bootflash://sup-1/file1.bak
```

次に、リモート サーバからファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy scp://192.168.1.1/image-file.bin bootflash:image-file.bin
```

次に、ブートフラッシュにキックスタート イメージとシステム イメージをコピーする例を示します。

```
switch# copy usb1: bootflash:
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
delete	ファイルまたはディレクトリを削除します。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
move	ファイルを移動します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

copy running-config startup-config

現在のすべての設定情報をリブート後にも使用可能になるよう、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用します。

copy running-config startup-config

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

変更した設定を表示するには、**show startup-config** コマンドを使用します。



(注)

copy running-config startup-config コマンドを入力した後は、実行中の設定と起動時の設定が同じになります。

例

次に、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存する例を示します。

```
switch# copy running-config startup-config
```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config	現在の実行コンフィギュレーションを表示します。
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルを表示します。



D コマンド

この章では、D で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

databits

1 文字に含まれるデータビットの数を端末ポートに設定するには、**databits** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

databits *bits*

no databits *bits*

構文の説明	<i>bits</i>	1 文字中のデータビット数。指定できる範囲は 5 ~ 8 です。
-------	-------------	----------------------------------

コマンド デフォルト	8 ビット
------------	-------

コマンド モード	端末ライン コンフィギュレーション モード
----------	-----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションからだけ設定できます。
------------	--

例 次に、コンソール ポートのデータビット数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# databits 7
```

次に、コンソール ポートのデータビット数をデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no databits 7
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show line	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

debug logfile

指定のファイルに **debug** コマンドの結果を出力するには、**debug logfile** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug logfile filename [size bytes]
```

```
no debug logfile filename [size bytes]
```

構文の説明

<i>filename</i>	debug コマンドの出力ファイルの名前を指定します。ファイル名は 64 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。
<i>size bytes</i>	(任意) ログ ファイルのサイズをバイト単位で指定します。指定できる範囲は 4096 ~ 4194304 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Cisco NX-OS ソフトウェアは、**log:** ファイル システム ルート ディレクトリにログ ファイルを作成します。ログ ファイルを表示するには、**dir log:** コマンドを使用します。

例

次に、デバッグ ログ ファイルを指定する例を示します。

```
switch# debug logfile debug_log
```

次に、デフォルトのデバッグ ログ ファイルに戻す例を示します。

```
switch# no debug logfile debug_log
```

関連コマンド

コマンド	説明
dir	ディレクトリの内容を表示します。
show debug logfile	デバッグ ログ ファイルの内容を表示します。

debug logging

debug コマンド出力のロギングをイネーブルにするには、**debug logging** コマンドを使用します。デバッグ ロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug logging

no debug logging

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、**debug** コマンドの出力のロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# debug logging
```

次に、**debug** コマンドの出力のロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# no debug logging
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug logfile	debug コマンド出力のログ ファイルを設定します。

delete

ファイルまたはディレクトリを削除するには、**delete** コマンドを使用します。

```
delete [filesystem:] [//server/] [directory] filename
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意)ファイルシステムの名前を指定します。有効な値は bootflash 、 debug 、 log 、 modflash 、または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意)サーバの名前を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意)ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	削除するファイルの名前を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) *filesystem://server/directory/filename* 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン(:)とスラッシュ(/)で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

削除するファイルを見つけるには、**dir** コマンドを使用します。

delete コマンドでディレクトリを削除すると、その内容も削除されます。このコマンドでディレクトリを削除する場合は、注意が必要です。

例

次に、ファイルを削除する例を示します

```
switch# delete bootflash:old_config.cfg
```

次に、ディレクトリを削除する例を示します

```
switch# delete my_dir
This is a directory.Do you want to continue (y/n)? [y] y
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>dir</code>	ディレクトリの内容を表示します。
<code>save</code>	コンフィギュレーション セッションをファイルに保存します。

dir

ディレクトリの内容を表示するには、**dir** コマンドを使用します。

```
dir [filesystem:] [//server/] [directory]
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意)ファイルシステムの名前を指定します。有効な値は bootflash 、 debug 、 log 、 modflash 、または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意)サーバの名前を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意)ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。



(注)

filesystem://server/directory 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン(:)とスラッシュ(/)で区切ります。

コマンド デフォルト

現在の作業ディレクトリの内容を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

dir コマンドを使用すると、指定したディレクトリにあるファイルのリストが表示されます。各ファイルについては、ファイルのサイズ(バイト単位)、最終変更日時、ファイル名のリストが表示されます。その後、ファイルシステムの使用に関する統計が表示されます。

現在の作業ディレクトリを確認するには、**pwd** コマンドを使用します。

現在の作業ディレクトリを変更するには、**cd** コマンドを使用します。

例

次に、ブートフラッシュのルート ディレクトリの内容を表示する例を示します。

```
switch# dir bootflash:
```

次に、現在の作業ディレクトリの内容を表示する例を示します。

```
switch# dir
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>cd</code>	現在の作業ディレクトリを変更します。
<code>delete</code>	ファイルまたはディレクトリを削除します。
<code>pwd</code>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。
<code>rmdir</code>	ディレクトリを削除します。



E コマンド

この章では、E で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

echo

端末にテキスト文字列を表示するには、**echo** コマンドを使用します。

```
echo [text]
```

構文の説明

<i>text</i>	(任意)表示するテキスト文字列を指定します。このテキスト文字列は 200 文字以下の長さの英数字で、大文字と小文字を区別し、スペースを含むことができます。ここには、CLI 変数への参照も含めることができます。
-------------	--

コマンド デフォルト

空白行。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドをコマンド スクリプトで使用すると、ステータス情報を表示したり、スクリプトの実行中にプロンプトを表示したりすることができます。

例

次に、コマンド プロンプトで空白行を表示する例を示します。

```
switch# echo
```

次に、コマンド プロンプトで 1 行のテキストを表示する例を示します。

```
switch# echo Script run at $(TIMESTAMP).
```

関連コマンド

コマンド	説明
run-script	コマンド スクリプトを実行します。
show cli variables	CLI 変数を表示します。

end

現在のコンフィギュレーションセッションを終了して、EXECモードに戻るには、**end** コマンドを使用します。

end

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使うと、現在コンフィギュレーションモードかどうかにかかわらず EXECモードに戻ります。システムを設定後、検証ステップを実行するために EXECモードに戻る際にこのコマンドを使用します。

例

次の例では、**end** コマンドを使用してインターフェイス コンフィギュレーションモードを終了し、EXECモードに戻ります。設定を確認するには、**show** コマンドを使用します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# switchport host
switch(config-if)# end
switch# show interface ethernet 1/1
```

関連コマンド

コマンド	説明
exit (EXEC)	スイッチからログアウトして、アクティブなターミナルセッションを終了します。
exit (グローバル)	現在のコンフィギュレーションモードを終了します。

exec-timeout

コンソール ポート上または仮想端末上の非アクティブ セッションのタイムアウトを設定するには、**exec-timeout** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

exec-timeout *minutes*

no exec-timeout

構文の説明

<i>minutes</i>	時間を分単位で指定します。指定できる範囲は0～525600です。0分を設定すると、タイムアウトをディセーブルにします。
----------------	---

コマンド デフォルト

タイムアウトはディセーブルです。

コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

コマンド 履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションからだけ設定できます。

例

次に、コンソール ポートの非アクティブ セッションのタイムアウトを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# exec-timeout 30
```

次に、コンソール ポートの非アクティブ セッションのタイムアウトをデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no exec-timeout
```

次に、仮想端末の非アクティブ セッションのタイムアウトを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# exec-timeout 30
```

次に、仮想端末の非アクティブ セッションのタイムアウトをデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# no exec-timeout
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>line console</code>	コンソール端末コンフィギュレーション モードを開始します。
<code>line vty</code>	仮想端末コンフィギュレーション モードを開始します。
<code>show running-config</code>	実行コンフィギュレーションを表示します。

exit(EXEC)

スイッチからログアウトして、アクティブな端末セッションを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

exit

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、**exit** (グローバル) コマンドを使用して、コンフィギュレーション モードから EXEC モードに移行し、**exit** (EXEC) コマンドを使用してログアウト (アクティブなセッションを終了) する例を示します。

```
switch(config)# exit
switch# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
end	コンフィギュレーション セッションを終了して、EXEC モードに移行します。
exit (グローバル)	現在のコンフィギュレーション モードを終了して、その次に高度なコンフィギュレーション モードへと移行します。

exit(グローバル)

任意のコンフィギュレーション モードを終了して、CLI モードの階層構造で次に高度なモードに移動するには、任意のコンフィギュレーション モードで **exit** コマンドを使用します。

exit

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

すべてのコンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

exit コマンドをコンフィギュレーション モードで使用すると、EXEC モードに戻ります。**exit** コマンドをインターフェイス、VLAN、またはゾーンの各コンフィギュレーション モードで使用すると、コンフィギュレーション モードに戻ります。最高レベルである EXEC モードでは、**exit** コマンドで EXEC モードを終了し、スイッチとの接続を切断します(詳細については、**exit(EXEC)** コマンドの説明を参照してください)。

例

次に、インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了して、コンフィギュレーション モードに戻る例を示します。

```
switch(config-if)# exit  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
end	コンフィギュレーション セッションを終了して、特権 EXEC モードに移行します。
exit(EXEC)	スイッチからログアウトして、アクティブなターミナル セッションを終了します。



F コマンド

この章では、F で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

find

特定の文字列で始まるファイル名を検索するには、**find** コマンドを使用します。

find filename-prefix

構文の説明

<i>filename-prefix</i>	ファイル名の最初の部分または全体を指定します。ファイル名プレフィクスでは、大文字と小文字が区別されます。
------------------------	--

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

find コマンドを使用すると、現在の作業ディレクトリの下にあるサブディレクトリがすべて検索されます。**cd** コマンドと **pwd** コマンドを使用して、最初に検索するディレクトリに移動することができます。

例

次に、「n6000」で始まるファイル名を表示する例を示します。

```
switch# find n6000
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

format

ブートフラッシュ デバイスをフォーマットする、つまり、内容を消去して、工場からの出荷時の状態に戻すには、**format** コマンドを使用します。

format bootflash:

構文の説明	bootflash: ブートフラッシュ ファイル システムの名前を指定します。
-------	--

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	EXEC モード
----------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、ブートフラッシュ デバイスをフォーマットする例を示します。

```
switch# format bootflash:
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
	dir	ディレクトリの内容を表示します。
	pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。



G コマンド

この章では、G で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

gunzip

圧縮ファイルを解凍するには、**gunzip** コマンドを使用します。

```
gunzip [filesystem:] [//server/] [directory] filename
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意)ファイルシステムの名前を指定します。有効な値は bootflash 、 modflash 、または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意)サーバの名前を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (<i>//</i>) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意)ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	解凍するファイルの名前を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) *filesystem://server/directory/filename* 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン(:)とスラッシュ(/)で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

圧縮ファイルの名前に **.gz** 拡張子が含まれている必要があります。
Cisco NX-OS ソフトウェアは、Lempel-Ziv 1977 (LZ77) コーディングを使用して圧縮を行います。

例

次に、圧縮ファイルを解凍する例を示します

```
switch# gunzip run_cfg.cfg.gz
```

関連コマンド

コマンド	説明
dir	ディレクトリの内容を表示します。
gzip	ファイルを圧縮します。

gzip

ファイルを圧縮するには、**gzip** コマンドを使用します。

```
gzip [filesystem:] [//server/] [directory] filename
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意)ファイルシステムの名前を指定します。有効な値は bootflash 、 modflash 、または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意)サーバの名前を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意)ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	圧縮するファイルの名前を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) *filesystem://server/directory/filename* 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン(:)とスラッシュ(/)で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを実行した後は、指定されたファイルが、ファイル名に **.gz** 拡張子が追加された圧縮ファイルに置き換えられます。

Cisco NX-OS ソフトウェアは、Lempel-Ziv 1977 (LZ77) コーディングを使用して圧縮を行います。

例

次に、ファイルを圧縮する例を示します。

```
switch# gzip run_cfg.cfg
```

関連コマンド

コマンド	説明
dir	ディレクトリの内容を表示します。
gunzip	圧縮ファイルを解凍します。



H コマンド

この章では、H で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

hostname

スイッチのホスト名を設定するには、**hostname** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

hostname name

no hostname

構文の説明

<i>name</i>	スイッチのホスト名を指定します。この名前は 32 文字以下の長さの英数字で、大文字と小文字を区別し、特殊文字を含むことができます。
-------------	---

コマンド デフォルト

デフォルトのホスト名は、「switch」です。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Cisco NX-OS ソフトウェアは、CLI プロンプト、およびデフォルトのコンフィギュレーションファイル名でホスト名を使用します。

hostname コマンドは、**switchname** コマンドと同じ機能を実行します。

例

次に、Cisco Nexus 6000 スwitchのホスト名を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# hostname Engineering2
Engineering2(config)#
```

次に、デフォルトのホスト名に戻す例を示します。

```
Engineering2# configure terminal
Engineering2(config)# no hostname
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show hostname	スイッチのホスト名を表示します。
show switchname	スイッチのホスト名を表示します。
switchname	スイッチのホスト名を設定します。



I コマンド

この章では、I で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

install all

Cisco Nexus 6000 スイッチにキックスタート イメージおよびシステム イメージをインストールするには、**install all** コマンドを使用します

```
install all [kickstart kickstart-url] [system system-url]
```

構文の説明

kickstart	(任意)キックスタート イメージ ファイルを指定します。
<i>kickstart-url</i>	キックスタート イメージ ファイルの完全なアドレスを指定します。大文字と小文字が区別されます。
system	(任意)システム イメージ ファイルを指定します。
<i>system-url</i>	システム イメージ ファイルの完全なアドレスを指定します。大文字と小文字が区別されます。

コマンド デフォルト

パラメータをまったく入力しない場合は、ブート変数の値が使用されます。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

キックスタートおよびシステムの URL の形式は、ファイル システム、ディレクトリ、およびファイルの場所によって異なります。

次の表は、ファイル システムのタイプごとの URL プレフィクス キーワードのリストです。URL プレフィクスのキーワードを指定しない場合、スイッチは、現在のディレクトリ内のファイルを検索します。

表 1 は、書き込み可能なローカル ストレージ ファイル システムの URL プレフィクス キーワードのリストです。表 2 は、リモート ファイル システムの URL プレフィクス キーワードのリストです。リモート ファイル システムでは、特に指定しない場合、パスはリモート サーバ上のユーザのデフォルト パスです。

表 1 書き込み可能なローカル ストレージ ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
bootflash:[//server/]	ブートフラッシュ メモリのコピー元 URL を指定します。 <i>server</i> 引数の値は module-1 、 sup-1 、 sup-active 、または sup-local です。
modflash:[//server/]	外部フラッシュ ファイル システムのコピー元 URL を指定します。 <i>server</i> 引数の値は module-1 、 sup-1 、 sup-active 、または sup-local です。
volatile:[//server/]	デフォルトの内部ファイル システムのコピー元の URL を指定します。このファイル システムに格納されたファイルまたはディレクトリはすべて、スイッチのリポート時に消去されます。 <i>server</i> 引数の値は module-1 、 sup-1 、 sup-active 、または sup-local です。

表2 リモート ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
ftp:	FTP ネットワーク サーバのコピー元の URL を指定します。このエイリアスの構文は次のとおりです。 ftp://server[/path]/filename
scp:	セキュア シェル (SSH) をサポートし、Secure Copy Protocol (SCP) を使用する ネットワーク サーバのコピー元の URL を指定します。構文は次のようになります。 scp://[username@]server[/path]/filename
sftp:	SSH FTP (SFTP) ネットワーク サーバのコピー元の URL を指定します。構文は次のようになります。 sftp://[username@]server[/path]/filename
tftp:	TFTP ネットワーク サーバのコピー元の URL を指定します。構文は次のようになります。 tftp://server[:port][[/path]/filename

イメージ ファイルをリモート サーバからダウンロードしてインストールするときに、サーバに関する情報もユーザ名も入力しないと、情報の入力を求められます。

このコマンドは、キックスタートおよびシステムのブート変数を設定し、イメージ ファイルを冗長スーパーバイザ モジュールにコピーします。

install all コマンドを使用すると、スイッチ ソフトウェアがアップグレードされ、接続されているすべてのシャーシのファブリック エクステンダ ソフトウェアもアップグレードされます。ソフトウェアがコピーされている間も、ファブリック エクステンダはオンラインのままトラフィックを伝送します。ソフトウェア イメージが正常にインストールされると、親スイッチおよびファブリック エクステンダ シャーシが自動的にリブートされ、親スイッチとファブリック エクステンダ間でのソフトウェア バージョンの互換性が維持されます。

install all コマンドを使用すると、スイッチの Cisco NX-OS ソフトウェアをダウングレードできます。ダウングレード ソフトウェアに、スイッチの現在の設定との互換性があるかどうかを調べるには、**show incompatibility system** コマンドを使用し、設定の互換性に問題がある場合は、それを解決します。

例

次に、bootflash: ディレクトリから Cisco NX-OS ソフトウェアをインストールする例を示します

```
switch# install all kickstart bootflash:nx-os_kick.bin system bootflash:nx-os_sys.bin
```

次に、キックスタートおよびシステムのブート変数に設定された値を使って、Cisco NX-OS ソフトウェアをインストールする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# boot kickstart bootflash:nx-os_kick.bin
switch(config)# boot system bootflash:nx-os_sys.bin
switch(config)# exit
switch# copy running-config startup-config
switch# install all
```

次に SCP サーバから Cisco NX-OS をインストールする例を示します

```
switch# install all kickstart scp://adminuser@192.168.1.1/nx-os_kick.bin system
bootflash:scp://adminuser@192.168.1.1/nx-os_sys.bin
```

関連コマンド

コマンド	説明
reload	デバイスに新しい Cisco NX-OS ソフトウェアをリロードします。
show incompatibility system	Cisco NX-OS システム ソフトウェア イメージ間の互換性の問題を表示します。
show install all	インストール処理に関する情報を表示します。
show version	ソフトウェア バージョンに関する情報を表示します。

install license

ライセンスをインストールするには、**install license** コマンドを使用します。

install license [*filesystem:*] [*//server/*] [*directory*] *src-filename* [*target-filename*]

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意)ファイルシステムの名前を指定します。有効な値は bootflash または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意)サーバの名前を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意)ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>src-filename</i>	元のライセンス ファイルの名前を指定します。
<i>target-filename</i>	(任意)ターゲット ライセンス ファイルの名前を指定します。



(注)

filesystem://server/directory/filename 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンド デフォルト

Cisco Nexus 6000 スイッチのライセンスはすべて、工場出荷時にインストールされています。手動インストールは不要です。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ターゲット ファイル名をコピー元の場所の後に指定した場合は、ライセンス ファイルがその名前でインストールされます。それ以外の場合、コピー元 URL のファイル名が使用されます。また、このコマンドはインストール前のライセンス ファイルも検証します。

例

次に、**bootflash:** ディレクトリに常駐する、**license-file** という名前のファイルをインストールする例を示します。

```
switch# install license bootflash:license-file
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show license</code>	ライセンス情報を表示します。
<code>show license host-id</code>	ライセンスに使用するシャーシのシリアル番号を表示します。
<code>show license usage</code>	ライセンス使用情報を表示します。



Lコマンド

この章では、Lで始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

line console

コンソールポートを指定して、コンソールポート コンフィギュレーション モードを開始するには、**line console** コマンドを使用します。

line console

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

コンソール回線は、コンソールポート セッションからだけ設定できます。

例

次に、コンソールポート コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
databits	ポートの文字に含まれるデータビットの数を設定します。
exec-timeout	ポートの非アクティブ端末タイムアウトを設定します。
modem	ポートのモデム設定を指定します。
parity	ポートのパリティ設定を指定します。
show line	コンソールポートの設定に関する情報を表示します。
speed	ポートの送信速度と受信速度を設定します。
stopbits	ポートのストップビットを設定します。

line vty

仮想端末を指定して、ライン コンフィギュレーション モードを開始するには、**line vty** コマンドを使用します。

line vty

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
access-class	VTY コンフィギュレーション モードで、着信接続および発信接続を制限します。
exec-timeout	ポートの非アクティブ端末タイムアウトを設定します。
session-limit	同時仮想端末セッションの最大数を設定します。
show line	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。



M コマンド

この章では、M で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

modem in

コンソールポートでモデム接続をイネーブルにするには、**modem in** コマンドを使用します。モデム接続をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

modem in

no modem in

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

タイムアウトはディセーブルです。

コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

コンソールポートは、コンソールポート上のセッションからだけ設定できます。

例

次に、コンソールポートでモデム接続をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem in
```

次に、コンソールポートでモデム接続をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no modem in
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソールポート コンフィギュレーション モードを開始します。
show line	コンソールポートの設定に関する情報を表示します。

modem init-string

コンソールポートに接続されたモデムに初期化文字列をダウンロードするには、**modem init-string** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
modem init-string {default | user-input}
```

```
no modem init-string
```

構文の説明

default	デフォルトの初期化文字列をダウンロードします。
user-input	ユーザ入力の初期化文字列をダウンロードします。

コマンド デフォルト

デフォルトの初期化文字列は ATE0Q1&D2&C1S0=1\015 です。

コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

コンソールポートは、コンソールポート上のセッションからだけ設定できます。デフォルトの初期化文字列 ATE0Q1&D2&C1S0=1\015 の定義は次のとおりです。

- AT:注意
- E0(必須):エコーなし
- Q1:結果コードがオン
- &D2:通常のデータターミナルレディ(DTR)オプション
- &C1:データキャリア状態の追跡がイネーブル
- S0=1:1 回の呼び出し音の後に応答
- \015(必須):8進数で表された復帰コード

ユーザ入力の初期化文字列を設定するには、**modem set-string** コマンドを使用します。

例

次に、コンソールポートに接続されたモデムにデフォルトの初期化文字列をダウンロードする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem init-string default
```

次に、コンソールポートに接続されたモデムにユーザ入力の初期化文字列をダウンロードする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem init-string user-input
```

次に、コンソールポートに接続されたモデムの初期化文字列を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no modem init-string
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソールポート コンフィギュレーション モードを開始します。
modem set-string	モデムにユーザ入力の初期化文字列を設定します。
show line	コンソールポートの設定に関する情報を表示します。

modem set-string user-input

コンソールポートに接続されたモデムにダウンロードするためのユーザ入力の初期化文字列を設定するには、**modem set-string user-input** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

modem set-string user-input *string*

no modem set-string

構文の説明	<i>string</i>	ユーザ入力の文字列を指定します。この文字列は 100 文字以下の長さの英数字で、大文字と小文字を区別し、特殊文字を含むことができます。
--------------	---------------	---

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 端末ライン コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン コンソールポートは、コンソールポート上のセッションからだけ設定できます。

例 次に、コンソールポートに接続されたモデムのための、ユーザ入力の初期化文字列を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem set-string user-input ATE0Q1&D2&C1S0=3\015
```

次に、コンソールポートに接続されたモデムのための、デフォルトの初期化文字列に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no modem set-string
```

関連コマンド	コマンド	説明
	line console	コンソールポート コンフィギュレーション モードを開始します。
	modem init-string	モデムにユーザ入力の初期化文字列をダウンロードします。
	show line	コンソールポートの設定に関する情報を表示します。

move

あるディレクトリから別のディレクトリにファイルを移動するには、**move** コマンドを使用します。

```
move {[filesystem:] [/server/] [directory] source-filename} [filesystem:] [/server/] [directory]
[destination-filename]
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意)ファイルシステムの名前を指定します。有効な値は bootflash 、 debug 、 modflash 、または volatile です。
<i>/server/</i>	(任意)サーバの名前を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意)ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>source-filename</i>	移動するファイルの名前を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>destination-filename</i>	(任意)移動先ファイルの名前を指定します。ファイル名は 64 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。

コマンド デフォルト

デフォルトの移動先ファイル名は、移動元のファイルと同じです。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

copy コマンドを使用すると、ファイルのコピーを作成できます。



ヒント

同じディレクトリ内でファイルを移動することで、ファイル名を変更できます。

例

次に、別のディレクトリにファイルを移動する例を示します。

```
switch# move file1 my_files/file2
```

次に、別のファイルシステムにファイルを移動する例を示します。

```
switch# move file1 volatile:
```

次に、別のスーパーバイザ モジュールにファイルを移動する例を示します。

```
switch# move file1 bootflash://sup-1/file1.bak
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
copy	ファイルのコピーを作成します。
delete	ファイルまたはディレクトリを削除します。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。



P コマンド

この章では、P で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

parity

コンソールポートのパリティを設定するには、**parity** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

parity {**even** | **none** | **odd**}

no parity {**even** | **none** | **odd**}

構文の説明

even	偶数パリティを指定します。
none	パリティなしを指定します。
odd	奇数パリティを指定します。

コマンド デフォルト

デフォルトは **none** キーワードです。

コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

コンソールポートは、コンソールポート上のセッションからだけ設定できます。

例

次に、コンソールポートにパリティを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# parity even
```

次に、コンソールポートのデフォルトのパリティに戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no parity even
```

関連コマンド

コマンド	説明
show line	コンソールポートの設定に関する情報を表示します。

ping

別のネットワーク デバイスへのネットワーク接続性を調べるには、**ping** コマンドを使用します。

```
ping {dest-address | hostname} [count {number | unlimited}] [df-bit] [interval seconds]
[packet-size bytes] [source src-address] [timeout seconds] [vrf {vrf-name | default |
management}]
```

構文の説明

<i>dest-address</i>	宛先デバイスの IPv4 アドレス。フォーマットは、 <i>A.B.C.D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスのホスト名。ホスト名では、大文字と小文字が区別されます。
count	(任意)送信の回数を指定します。
<i>number</i>	ping の数を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 655350 です。デフォルトは 5 です。
unlimited	無制限の回数の ping を許可します。
df-bit	(任意)IPv4 ヘッダーの Do-Not-Fragment ビットをイネーブルにします。デフォルトではディセーブルになっています。
interval <i>seconds</i>	(任意)送信の間隔を秒数で指定します。指定できる範囲は 0 ~ 60 です。デフォルト値は 1 秒です。
packet-size <i>bytes</i>	(任意)送信するパケット サイズをバイト数で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 65468 です。デフォルト値は 56 バイトです。
source <i>scr-address</i>	(任意)使用する送信元 IPv4 アドレスを指定します。フォーマットは、 <i>A.B.C.D</i> です。デフォルトは、デバイスの管理インターフェイスの IPv4 アドレスです。
timeout <i>seconds</i>	(任意)無応答タイムアウトの間隔を秒数で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 60 です。デフォルト値は 2 秒です。
vrf <i>vrf-name</i>	(任意)使用する仮想ルーティングおよびフォワーディング (VRF) を指定します。名前は最大 32 文字で、大文字と小文字が区別されます。
default	(任意)デフォルトの VRF を指定します。
management	(任意)管理 VRF を指定します。

コマンド デフォルト

デフォルト値については、このコマンドの「構文の説明」の項を参照してください。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、別のネットワーク デバイスへの接続性を調べる例を示します。

```
switch# ping 192.168.2.246
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping6	インターネットプロトコルバージョン 6 (IPv6) アドレッシングを使用して他のデバイスへの接続性を調べます。
traceroute	IP アドレスへの送信時にパケットがたどるルートを表示します。

ping6

IPv6 アドレッシングを使用して他のデバイスへのネットワーク接続性を調べるには、**ping6** コマンドを使用します。

```
ping6 {dest-address | hostname} [count {number | unlimited}] [interface intf-id] [interval
seconds] [packet-size bytes] [source address] [timeout seconds] [vrf {vrf-name | default |
management}]
```

構文の説明

<i>dest-address</i>	宛先 IPv6 アドレス。フォーマットは、 A:B::C:D です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスのホスト名を指定します。ホスト名では、大文字と小文字が区別されます。
count	(任意)送信の回数を指定します。
<i>number</i>	ping の数を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 655350 です。デフォルトは 5 です。
unlimited	無制限の回数の ping を許可します。
interface <i>intf-id</i>	(任意)IPv6 パケットを送信するインターフェイスを指定します。有効なインターフェイスタイプは、イーサネット、ループバック、EtherChannel、および VLAN です。
interval <i>seconds</i>	(任意)送信の間隔を秒数で指定します。指定できる範囲は 0 ~ 60 です。デフォルト値は 1 秒です。
packet-size <i>bytes</i>	(任意)送信するパケットサイズをバイト数で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 65468 です。
source <i>address</i>	(任意)使用する送信元 IPv6 アドレスを指定します。フォーマットは、 A:B::C:D です。デフォルトは、デバイスの管理インターフェイスの IPv6 アドレスです。
timeout <i>seconds</i>	(任意)無応答タイムアウトの間隔を秒数で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 60 です。デフォルト値は 2 秒です。
vrf <i>vrf-name</i>	(任意)使用する仮想ルーティングおよびフォワーディング (VRF) を指定します。名前は最大 32 文字の英数字で、大文字と小文字が区別されます。
default	(任意)デフォルトの VRF を指定します。
management	(任意)管理 VRF を指定します。

コマンド デフォルト

デフォルト値については、このコマンドの「構文の説明」の項を参照してください。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、IPv6 アドレッシングを使用して他のデバイスへの接続性を調べる例を示します。

```
switch# ping6 2001:0DB8::200C:417A vrf management
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping	IPv4 アドレッシングを使用して他のデバイスへの接続性を調べます。
traceroute6	IPv6 アドレスへの送信時にパケットがたどるルートを表示します。



R コマンド

この章では、R で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

reload

スイッチおよび接続されたすべてのファブリック エクステンダ シャーシをリロードするか、特定のファブリック エクステンダ をリロードするには、**reload** コマンドを使用します。

reload {all | fex chassis_ID}

構文の説明

all	Cisco Nexus 6000 スイッチ全体および接続されているすべてのファブリック エクステンダ シャーシをリブートします。
fex chassis_ID	特定のファブリック エクステンダ シャーシをリブートします。シャーシ ID の範囲は、100 ~ 199 です。

コマンド デフォルト

Cisco Nexus 6000 スイッチをリロードします。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

reload コマンドを使用すると、スイッチおよびファブリック エクステンダ 上でトラフィックが中断されます。



(注)

reload コマンドでは、実行コンフィギュレーションが保存されません。デバイスの現在のコンフィギュレーションを保存するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用します。

例

次に、Cisco Nexus 6000 スイッチをリロードする例を示します。

```
switch# copy running-config startup-config
switch# reload
This command will reboot the system.(y/n)? [n] y
```

次に、ファブリック エクステンダ をリロードする例を示します。

```
switch# reload fex 101
WARNING: This command will reboot FEX 101
Do you want to continue? (y/n) [n] y
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	現在の実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
show version	ソフトウェア バージョンに関する情報を表示します。

rmdir

ディレクトリを削除するには、**rmdir** コマンドを使用します。

```
rmdir [filesystem: [//server/]] directory
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意)ファイルシステムの名前を指定します。有効な値は bootflash 、 modflash 、または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意)サーバの名前を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (<i>//</i>) を含む必要があります。
<i>directory</i>	削除するディレクトリ名を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) *filesystem://server/directory* 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、ディレクトリを 1 つ削除する方法を示します。

```
switch# rmdir my_files
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
delete	ファイルまたはディレクトリを削除します。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

run-script

コマンドライン インターフェイス (CLI) でコマンド スクリプト ファイルを実行するには、**run-script** コマンドを使用します。

run-script [*filesystem*://*module*/][*directory*/]*filename*

構文の説明

<i>filesystem</i> :	(任意) ファイル システムの名前を指定します。大文字と小文字が区別されます。
<i>//module/</i>	(任意) スーパーバイザ モジュールの ID を指定します。有効な値は sup-active 、 sup-local 、 sup-remote 、または sup-standby です。ID では、大文字と小文字が区別されます。
<i>directory/</i>	(任意) ディレクトリの名前を指定します。大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	コマンド ファイルの名前を指定します。大文字と小文字が区別されます。



(注) *filesystem://server/directory/filename* 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

リモート デバイスでコマンド ファイルを作成して、それを **copy** コマンドで Cisco Nexus 6000 スイッチにダウンロードする必要があります。

例

次に、コマンド スクリプト ファイルを実行する例を示します。

```
switch# run-script script-file
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
copy	ファイルをコピーします。
dir	ディレクトリの内容を表示します。

コマンド	説明
echo	端末にテスト文字列を表示します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。
sleep	定義した秒数の間、CLI を一時停止します。



S コマンド

この章では、S で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

save

現在のコンフィギュレーション セッションをファイルに保存するには、**save** コマンドを使用します。

save *location*

構文の説明

<i>location</i>	ファイルの場所を指定します。保存場所には、 bootflash または volatile を指定できます。ファイル名は、63 文字以下の任意の英数文字列です。
-----------------	---

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

セッション コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、コンフィギュレーション セッションをブートフラッシュ内のファイルに保存する例を示します。

```
switch# configure session MySession
switch(config-s)# save bootflash:sessions/MySession
```

関連コマンド

コマンド	説明
configure session	コンフィギュレーション セッションを作成または変更します。
delete	特定の場所からファイルを削除します。

send

アクティブなユーザ セッションにメッセージを送信するには、**send** コマンドを使用します。

```
send [session line] text
```

構文の説明

session line	(任意) ユーザ セッションを指定します。
text	テキスト文字列を指定します。このテキスト文字列は 80 までの英数字で、大文字と小文字を区別します。

コマンド デフォルト

アクティブなすべてのユーザ セッションにメッセージを送信します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show users コマンドを使用すると、アクティブなユーザ セッションに関する情報を表示できます。

例

次に、スイッチでアクティブなすべてのユーザ セッションにメッセージを送信する例を示します。

```
switch# send The system will reload in 15 minutes!
The system will reload in 15 minutes!
```

次に、特定のユーザ セッションにメッセージを送信する例を示します。

```
switch# send session pts/0 You must log off the switch.
```

関連コマンド

コマンド	説明
show users	スイッチでアクティブなユーザ セッションを表示します。

session-limit

デバイスの同時仮想端末セッションの最大数を設定するには、**session-limit** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

session-limit sessions

no session-limit sessions

構文の説明

sessions セッションの最大数を指定します。範囲は 1 ～ 64 です。

コマンド デフォルト

32 セッション。

コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、同時仮想端末セッションの最大数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# session-limit 48
```

次に、同時仮想端末セッションのデフォルトの最大数に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# no session-limit 48
```

関連コマンド

コマンド	説明
line vty	仮想端末コンフィギュレーション モードを開始します。
show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。

setup

基本デバイス セットアップ ダイアログを開始するには、**setup** コマンドを使用します。

setup [ficon]

構文の説明	ficon	(任意) 基本 ficon セットアップ コマンド ファシリティを実行します。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	セットアップ スクリプトは、ユーザが設定した値ではなく、出荷時のデフォルト値を使用します。 Ctrl+C キーを押すと、どの時点でもダイアログを終了できます。	
例	次に、基本デバイス セットアップ スクリプトを開始する例を示します。 switch# setup	
関連コマンド	コマンド	説明
	show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。

sleep

コマンドライン インターフェイス (CLI) が、プロンプトを表示する前に一時停止するよう設定するには、**sleep** コマンドを使用します。

sleep *seconds*

構文の説明

<i>seconds</i>	時間を秒単位で指定します。指定できる範囲は 0 ~ 2147483647 です。
----------------	--

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドをコマンド スクリプトで使用すると、スクリプトの実行を遅らせることができます。

例

次に、プロンプトを表示する前に CLI を 5 秒間、一時停止させる例を示します。

```
switch# sleep 5
```

関連コマンド

コマンド	説明
run-script	コマンド スクリプトを実行します。

speed

コンソールポートの送受信速度を設定するには、**speed** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

speed speed

no speed speed

構文の説明

speed 速度を bps(ビット/秒)単位で指定します。有効な速度は 300、1200、2400、4800、9600、19200、38400、57600、または 115200 です。

コマンド デフォルト

デフォルトのコンソールポート速度は 9600 bps です。

コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

コンソールポートは、コンソールポート上のセッションからだけ設定できます。

例

次に、コンソールポートの速度を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# speed 57600
```

次に、コンソールポートのデフォルトの速度に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no speed 57600
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソール端末コンフィギュレーションモードを開始します。
show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。

stopbits

コンソールポートのストップビットを設定するには、**stopbits** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

stopbits {1 | 2}

no stopbits {1 | 2}

構文の説明

1	1 ストップビットを指定します。
2	2 ストップビットを指定します。

コマンド デフォルト

1 ストップビット

コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

コンソールポートは、コンソールポート上のセッションからだけ設定できます。

例

次に、コンソールポートのストップビット数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# stopbits 2
```

次に、コンソールポートのストップビット数をデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no stopbits 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソール端末コンフィギュレーションモードを開始します。
show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。

switchname

デバイスのホスト名を設定するには、**switchname** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchname *name*

no switchname

構文の説明

<i>name</i>	スイッチのホスト名を指定します。この名前は 32 文字以下の長さの英数字で、大文字と小文字を区別し、特殊文字を含むことができます。
-------------	---

コマンド デフォルト

デフォルトのホスト名は、「switch」です。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Cisco NX-OS ソフトウェアは、CLI プロンプト、およびデフォルトのコンフィギュレーションファイル名でホスト名を使用します。

switchname コマンドは、**hostname** コマンドと同じ機能を実行します。

例

次に、Cisco Nexus 6000 スイッチのホスト名を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# switchname Engineering2
Engineering2(config)#
```

次に、デフォルトのホスト名に戻す例を示します。

```
Engineering2# configure terminal
Engineering2(config)# no switchname
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
hostname	スイッチのホスト名を設定します。
show hostname	スイッチのホスト名を表示します。
show switchname	スイッチのホスト名を表示します。

system cores

システム コアの宛先を設定するには、**system cores** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
system cores tftp:tftp_URL [vrf management]
```

```
no system cores
```

構文の説明

tftp:	TFTP サーバを指定します。
<i>tftp_URL</i>	宛先のファイル システムおよびファイルの URL を指定します。次の形式を使用します。 <i>[/server[:port]][/path/]filename</i>
vrf management	(任意)管理仮想ルーティングおよび転送 (VRF) を使用するよう指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド 履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、コア ファイルを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# system cores tftp://serverA:69/core_file
```

次に、システム コア ログイングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no system cores
```

関連コマンド

コマンド	説明
show system cores	コア ファイル名を表示します。

system startup-config unlock

スタートアップ コンフィギュレーション ファイルのロックを解除するには、**system startup-config unlock** コマンドを使用します。

```
system startup-config unlock process-id
```

構文の説明

<i>process-id</i>	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルをロックしたプロセスの ID を指定します。
-------------------	--

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

スタートアップ コンフィギュレーション ファイルのロックを表示するには、**show system internal sysmgr startup-config locks** コマンドを使用します。

例

次に、スタートアップ コンフィギュレーションのロックを解除する例を示します。

```
switch# system startup-config unlock 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーション情報を表示します。



show コマンド

この章では、基本的な Cisco NX-OSシステムの **show** コマンドについて説明します。

show banner motd

Message-of-The-Day (MoTD) バナーを表示するには、**show banner motd** コマンドを使用します。

show banner motd

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、MoTD バナーを表示する例を示します。

```
switch# show banner motd
Unauthorized access is prohibited!
```

関連コマンド

コマンド	説明
banner motd	MoTD バナーを設定します。

show boot

ブート変数の設定を表示するには、**show boot** コマンドを使用します。

show boot [variables]

構文の説明	variables (任意)ブート変数のリストを表示します。
--------------	---------------------------------------

コマンド デフォルト	設定されたすべてのブート変数を表示します。
-------------------	-----------------------

コマンド モード	EXEC モード
-----------------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、設定されたすべてのブート変数を表示する例を示します。

```
switch# show boot
```

次に、ブート変数名のリストを表示する例を示します。

```
switch# show boot variables
```

関連コマンド	コマンド	説明
	boot	キックスタート イメージまたはシステム イメージのブート変数を設定します。

show cli alias

コマンド エイリアス設定を表示するには、**show cli alias** コマンドを使用します。

show cli alias [*name alias-name*]

構文の説明

name <i>alias-name</i>	(任意)コマンド エイリアスの名前を指定します。エイリアス名では、大文字と小文字は区別されません。
-------------------------------	---

コマンド デフォルト

設定されたすべてのコマンド エイリアス変数を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、設定されたすべてのコマンド エイリアスを表示する例を示します。

```
switch# show cli alias
```

次に、特定のコマンド エイリアスを表示する例を示します。

```
switch# show cli alias name ethint
```

関連コマンド

コマンド	説明
cli alias name	コマンド エイリアスを設定します。

show cli history

コマンドの履歴を表示するには、**show cli history** コマンドを使用します。

show cli history [*lines*] [**unformatted**]

構文の説明

<i>lines</i>	(任意) コマンド履歴の末尾から指定した行数を表示します。
unformatted	(任意) 行番号もタイムスタンプも含めずにコマンドを表示します。

コマンド デフォルト

フォーマット化された履歴全体を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、コマンドの履歴全体を表示する例を示します。

```
switch# show cli history
```

次に、コマンド履歴の最後の 10 行を表示する例を示します。

```
switch# show cli history 10
```

次に、フォーマット化されていないコマンド履歴を表示する例を示します。

```
switch# show cli history unformatted
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear cli history	コマンドの履歴をクリアします。

show cli variables

コマンドライン インターフェイス (CLI) 変数の設定を表示するには、**show cli variables** コマンドを使用します。

show cli variables

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド 履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、CLI 変数を表示する例を示します。

```
switch# show cli variables
```

関連コマンド

コマンド	説明
cli var name	CLI 変数を設定します。

show clock

現在の日時を表示するには、**show clock** コマンドを使用します。

show clock [detail]

構文の説明	detail	(任意)サマータイム(夏時間)オフセットの設定を表示します。
--------------	---------------	--------------------------------

コマンド デフォルト	なし
-------------------	----

コマンド モード	EXEC モード
-----------------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、現在のクロックの設定を表示する例を示します。

```
switch# show clock
```

次に、現在のクロックの設定とサマータイム(夏時間)の設定を表示する例を示します。

```
switch# show clock detail
```

関連コマンド	コマンド	説明
	clock set	クロックの時刻をセットします。
	clock summer-time	サマータイム(夏時間)オフセットを設定します。

show configuration session

コンフィギュレーション セッションに関する情報を表示するには、**show configuration session** コマンドを使用します。

show configuration session [*session-name* | **status** | **summary**]

構文の説明

session-name	(任意)コンフィギュレーションセッション名です。この名前には最大 64 文字までの英数字を指定できます。
status	(任意)コンフィギュレーションセッションのステータスを表示します。
summary	(任意)アクティブなコンフィギュレーションセッションに関する情報のサマリーを表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、特定のコンフィギュレーションセッションに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show configuration session mySession1
config session name mySession1
0001 ip access-list myACL
0002 permit icmp any any
0003 statistics per-entry
switch#
```

次に、アクティブなコンフィギュレーションセッションのステータスを表示する例を示します。

```
switch# show configuration session status
=====
Session Name       : mySession1
Last Action        : Validate
Last Action Status : Success
Last Action Reason : -NA-
Last Action Timestamp : 19:03:49 UTC Jan 06 2013
=====

switch#
```

次に、アクティブなコンフィギュレーション セッションに関する情報のサマリーを表示する例を示します。

```
switch# show configuration session summary
Session Manager Database:
-----
Name                Session Owner      Creation Time
-----
mySession1         root                18:09:03 UTC Jan 06 2013

Number of active configuration sessions = 1
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
configure session	コンフィギュレーション セッションを作成します。

show copyright

Cisco NX-OS ソフトウェアの著作権情報を表示するには、**show copyright** コマンドを使用します。

show copyright

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、Cisco NX-OS の著作権情報を表示する例を示します。

```
switch# show copyright
Cisco Nexus Operating System (NX-OS) Software
TAC support: http://www.cisco.com/tac
Copyright (c) 2002-2013, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
The copyrights to certain works contained in this software are
owned by other third parties and used and distributed under
license.Certain components of this software are licensed under
the GNU General Public License (GPL) version 2.0 or the GNU
Lesser General Public License (LGPL) Version 2.1.A copy of each
such license is available at
http://www.opensource.org/licenses/gpl-2.0.php and
http://www.opensource.org/licenses/lgpl-2.1.php
switch#
```

show debug logfile

デバッグ ログファイルの内容を表示するには、**show debug logfile** コマンドを使用します。

show debug logfile *filename*

構文の説明	<i>filename</i>	デバッグ ログ ファイルの名前を指定します。
-------	-----------------	------------------------

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	EXEC モード
----------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	ログ ファイルは log: ファイル システムにあります。
------------	-------------------------------

例	次に、デバッグ ログ ファイルの内容を表示する例を示します。 switch# show debug logfile dmesg
---	---

関連コマンド	コマンド	説明
	debug logfile	デバッグ ログ ファイルを設定します。

show environment

ハードウェア環境のステータスに関する情報を表示するには、**show environment** コマンドを使用します。

show environment [fan | power | temperature]

構文の説明

fan	(任意)ファンの環境に関する情報を表示します。
power	(任意)電力容量と配電に関する情報を表示します。
temperature	(任意)温度環境に関する情報を表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、ハードウェア環境に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show environment
```

```
Fan:
```

Fan	Model	Hw	Status
Chassis-1	N6000-FAN	--	ok
Chassis-2	N6000-FAN	--	ok
Chassis-3	N6000-FAN	--	ok
Chassis-4	N6000-FAN	--	ok
PS-1	N55-PAC-1100W	--	ok
PS-2	N55-PAC-1100W	--	ok
PS-3	N55-PAC-1100W	--	ok
PS-4	--	--	absent
PS-5	--	--	absent
PS-6	--	--	absent

```
Temperature
```

Module	Sensor	MajorThresh (Celsius)	MinorThres (Celsius)	CurTemp (Celsius)	Status
0	Sup-Asic	95	90	29	ok
0	Internal-1	70	60	19	ok
0	Outlet-1	70	60	17	ok
1	Outlet-1	70	0	32	minor alarm
2	Outlet-1	70	0	29	minor alarm
3	Outlet-1	70	0	30	minor alarm

```

4      Outlet-1  70      0      32      minor alarm
5      Outlet-1  70      0      30      minor alarm
6      Outlet-1  70      0      28      minor alarm
7      Outlet-1  70      0      30      minor alarm
8      Outlet-1  70      0      27      minor alarm

```

Power Supply:
Voltage: 12 Volts

```

-----
PS  Model                Input Power      Current      Status
      Type      (Watts)      (Amps)
-----
1   N55-PAC-1100W        AC    1050.00    87.50    ok
2   N55-PAC-1100W        AC    1050.00    87.50    ok
3   N55-PAC-1100W        AC    1050.00    87.50    ok
4   --                   --      --      --    absent
5   --                   --      --      --    absent
6   --                   --      --      --    absent

```

```

-----
Mod Model                Power      Current      Power      Current      Status
      Requested Requested      Allocated Allocated
      (Watts)      (Amps)      (Watts)      (Amps)
-----
0   N6K-C6004-96Q-SUP    132.00    11.00    132.00    11.00    powered-up
1   N6K-FIXED-LEM        252.00    21.00    252.00    21.00    powered-up
2   N6K-FIXED-LEM        252.00    21.00    252.00    21.00    powered-up
3   N6K-FIXED-LEM        252.00    21.00    252.00    21.00    powered-up
4   N6K-FIXED-LEM        252.00    21.00    252.00    21.00    powered-up
5   N6K-C6004-M12Q      252.00    21.00    252.00    21.00    powered-up
6   N6K-C6004-M12Q      252.00    21.00    252.00    21.00    powered-up
7   N6K-C6004-M12Q      252.00    21.00    252.00    21.00    powered-up
8   N6K-C6004-M12Q      252.00    21.00    252.00    21.00    powered-up

```

Power Usage Summary:

```

-----
Power Supply redundancy mode:      Redundant
Power Supply redundancy operational mode:  Non-redundant

```

Total Power Capacity 3150.00 W

Power reserved for Supervisor(s) 132.00 W

Power currently used by Modules 2016.00 W

```

-----
Total Power Available 1002.00 W
-----

```

switch#

show feature

スイッチの機能のステータスを表示するには、**show feature** コマンドを使用します。

show feature

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、スイッチのすべての機能の状態を表示する例を示します。

```
switch# show feature
Feature Name           Instance  State
-----
Flexlink               1        disabled
amt                   1        disabled
bgp                   1        disabled
cts                   1        enabled
dhcp                  1        disabled
dot1x                 1        enabled
eigrp                 1        disabled
eigrp                 2        disabled
eigrp                 3        disabled
eigrp                 4        disabled
eth_port_sec          1        enabled
fcoe                  1        disabled
fcoe-npv              1        disabled
fex                   1        disabled
glbp                  1        disabled
hsrp_engine           1        enabled
interface-vlan        1        enabled
isis                  1        disabled
isis                  2        disabled
isis                  3        disabled
isis                  4        disabled
lACP                  1        enabled
ldap                  1        disabled
lldp                  1        enabled
msdp                  1        disabled
oim                   1        disabled
ospf                   1        enabled
ospf                   2        enabled (not-running)
ospf                   3        enabled (not-running)
ospf                   4        enabled (not-running)
ospfv3                1        enabled
```

```

ospfv3          2          enabled (not-running)
ospfv3          3          enabled (not-running)
ospfv3          4          enabled (not-running)
pbr             1          disabled
pim             1          enabled
poe             1          disabled
private-vlan    1          enabled
privilege       1          disabled
ptp             1          disabled
rip             1          disabled
rip             2          disabled
rip             3          disabled
rip             4          disabled
scpServer       1          disabled
sftpServer      1          disabled
sshServer       1          enabled
tacacs          1          enabled
telnetServer    1          enabled
udld            1          enabled
vem             1          disabled
vpc             1          enabled
vrrp            1          disabled
vtp             1          disabled
switch#

```

関連コマンド

コマンド	説明
feature	スイッチの機能をイネーブルまたはディセーブルにします。

show file

ローカル メモリのファイルの内容を表示するには、**show file** コマンドを使用します。

```
show file [filesystem:] [//server/] [directory] filename
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意)ファイル システムの名前を指定します。有効な値は bootflash 、 modflash 、または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意)サーバの名前を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意)ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	削除するファイルの名前を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) *filesystem://server/directory/filename* 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、ファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file ent-mod.lic
```

表示するファイルがディレクトリである場合は、コマンドが次のエラー メッセージを返します。

```
switch# show file bootflash:///routing-sw
/bin/showfile: /bootflash/routing-sw: Is a directory
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

show hardware internal

物理デバイス ハードウェアに関する情報を表示するには、**show hardware internal** コマンドを使用します。

show hardware internal

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、物理デバイス ハードウェアに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show hardware internal
```

関連コマンド

コマンド	説明
show inventory	ハードウェア インベントリ情報を表示します。
show module	モジュールに関する情報を表示します。

show hostname

スイッチのホスト名を表示するには、**show hostname** コマンドを使用します。

show hostname

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show switchname コマンドでも、スイッチのホスト名が表示されます。

例

次に、スイッチのホスト名を表示する例を示します。

```
switch# show hostname
switch
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
hostname	スイッチのホスト名を設定します。
show switchname	ホスト名を表示します。
switchname	スイッチのホスト名を設定します。

show incompatibility system

実行中のシステム イメージと、Cisco NX-OS ソフトウェアのダウングレード前のシステム イメージとの間の設定の互換性の問題を表示するには、**show incompatibility system** コマンドを使用します。

```
show incompatibility system {filesystem: //server/ [directory] filename}
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	ファイル システムの名前を指定します。有効な値は bootflash または volatile です。
<i>//server/</i>	サーバ名を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意)ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	ロードされたソフトウェア イメージと比較するファイルの名前を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) *filesystem://server/directory/filename* 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、設定の互換性の問題を表示する例を示します。

```
switch# show incompatibility system bootflash://sup-local/old_image.bin
```

関連コマンド

コマンド	説明
install all	キックスタート イメージおよびシステム イメージをインストールします。
reload	デバイスに新しい Cisco NX-OS ソフトウェアをリロードします。
show version	ソフトウェア バージョンに関する情報を表示します。

show install all

install all コマンドの動作に関連する情報を表示するには、**show install all** コマンドを使用します。

show install all {failure-reason | impact [kickstart | system] | status}

構文の説明	failure-reason	ソフトウェアをインストールできなかった理由を表示します。
	impact	ブート変数で参照されたイメージのインストールが及ぼす影響を表示します。
	kickstart	(任意)キックスタート ブート変数で参照されたキックスタート イメージのインストールが及ぼす影響を表示します。
	system	(任意)システム ブート変数で参照されたシステム イメージのインストールが及ぼす影響を表示します。
	status	ソフトウェア インストール プロセスのステータスを表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、インストールできなかった理由を表示する例を示します。

```
switch# show install all failure-reason
No install all failure-reason
switch#
```

次に、新しいイメージのインストールが及ぼす影響を表示する例を示します。

```
switch# show install all impact
Verifying image bootflash:/n6000-uk9-kickstart.6.0.2.N1.0.368.5P.bin.v1 for boot variable
"kickstart".
[#####] 100% -- SUCCESS

Verifying image bootflash:/n6000-uk9.6.0.2.N1.0.368.5P.bin.v1 for boot variable "system".
[#####] 100% -- SUCCESS

Verifying image type.
[#####] 100% -- SUCCESS

Extracting "system" version from image bootflash:/n6000-uk9.6.0.2.N1.0.368.5P.bin.v1.
[#####] 100% -- SUCCESS

Extracting "kickstart" version from image
bootflash:/n6000-uk9-kickstart.6.0.2.N1.0.368.5P.bin.v1.
[#####] 100% -- SUCCESS
```

```
Extracting "bios" version from image bootflash:/n6000-uk9.6.0.2.N1.0.368.5P.bin.v1.
[#####] 100% -- SUCCESS
```

```
Performing module support checks.
[#####] 100% -- SUCCESS
```

```
Notifying services about system upgrade.
[#####] 100% -- SUCCESS
```

Compatibility check is done:

Module	bootable	Impact	Install-type	Reason
0	yes	non-disruptive	none	
1	yes	non-disruptive	rolling	

Images will be upgraded according to following table:

Module	Image	Running-Version	New-Version	Upg-Required
0	system	6.0(2)N1(1)	6.0(2)N1(1)	no
0	kickstart	6.0(2)N1(1)	6.0(2)N1(1)	no
0	bios	v2.6.0(11/21/2012)	v2.6.0(11/21/2012)	no
0	power-seq	v3.0	v3.0	no
0	xbar-power-seq	v1.0	v1.0	no
1	power-seq	v2.0	v2.0	no
0	uC	v1.1.0.3	v1.1.0.3	no

Additional info for this installation:

Remove QoS & ACL config on L3 interfaces and SVIs if any

Service "stp" : Port: port-channel200 in MST0000 is Designated.Topology change could occur during ISSU.

Upgrade needs to be disruptive!!!

Service "vpc" : STP Preupgrade Check failed on VPC peer switch

次に、ソフトウェアのインストールプロセスのステータスを表示する例を示します。

```
switch# show install all status
There is an on-going installation...
Enter Ctrl-C to go back to the prompt.

switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
install all	物理デバイスにソフトウェアをインストールします。
show boot	ブート変数の設定を表示します。

show inventory

スイッチハードウェアの物理インベントリ情報を表示するには、**show inventory** コマンドを使用します。

show inventory [fex chassis_ID]

構文の説明

fex chassis_ID (任意)ファブリック エクステンダ シャーシ ID を指定します。シャーシ ID の範囲は、100 ~ 199 です。

コマンド デフォルト

すべてのハードウェア インベントリ情報を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、スイッチのハードウェア インベントリに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show inventory
```

```
Fan:
```

```
-----
Fan          Model          Hw          Status
-----
Chassis-1   N6000-FAN     --         ok
Chassis-2   N6000-FAN     --         ok
Chassis-3   N6000-FAN     --         ok
Chassis-4   N6000-FAN     --         ok
PS-1        N55-PAC-1100W --         ok
PS-2        N55-PAC-1100W --         ok
PS-3        N55-PAC-1100W --         ok
PS-4        --            --         absent
PS-5        --            --         absent
PS-6        --            --         absent
```

```
Temperature
```

```
-----
Module  Sensor      MajorThresh  MinorThres  CurTemp  Status
      (Celsius)  (Celsius)    (Celsius)
-----
0       Sup-Asic    95           90          29       ok
0       Internal-1  70           60          19       ok
0       Outlet-1    70           60          17       ok
1       Outlet-1    70           0           32       minor alarm
2       Outlet-1    70           0           29       minor alarm
3       Outlet-1    70           0           30       minor alarm
4       Outlet-1    70           0           32       minor alarm
5       Outlet-1    70           0           30       minor alarm
```

```

6      Outlet-1  70      0      28      minor alarm
7      Outlet-1  70      0      30      minor alarm
8      Outlet-1  70      0      27      minor alarm

```

```

Power Supply:
Voltage: 12 Volts

```

```

-----
PS  Model                Input Power      Current   Status
      Type (Watts)      (Amps)
-----
1   N55-PAC-1100W        AC    1050.00    87.50    ok
2   N55-PAC-1100W        AC    1050.00    87.50    ok
3   N55-PAC-1100W        AC    1050.00    87.50    ok
4   --                   --      --      --      absent
5   --                   --      --      --      absent
6   --                   --      --      --      absent

```

```

Mod Model                Power      Current   Power      Current   Status
      Requested Requested  Allocated Allocated
      (Watts)  (Amps)    (Watts)    (Amps)
-----
0   N6K-C6004-96Q-SUP    132.00    11.00    132.00    11.00    powered-up
1   N6K-FIXED-LEM        252.00    21.00    252.00    21.00    powered-up
2   N6K-FIXED-LEM        252.00    21.00    252.00    21.00    powered-up
3   N6K-FIXED-LEM        252.00    21.00    252.00    21.00    powered-up
4   N6K-FIXED-LEM        252.00    21.00    252.00    21.00    powered-up
5   N6K-C6004-M12Q       252.00    21.00    252.00    21.00    powered-up
6   N6K-C6004-M12Q       252.00    21.00    252.00    21.00    powered-up
7   N6K-C6004-M12Q       252.00    21.00    252.00    21.00    powered-up
8   N6K-C6004-M12Q       252.00    21.00    252.00    21.00    powered-up

```

```

Power Usage Summary:

```

```

-----
Power Supply redundancy mode:          Redundant
Power Supply redundancy operational mode: Non-redundant

```

```

Total Power Capacity                    3150.00 W

```

```

Power reserved for Supervisor(s)        132.00 W
Power currently used by Modules          2016.00 W

```

```

-----
Total Power Available                    1002.00 W
-----

```

```

switch#

```

次に、接続されているファブリック エクステンダのハードウェア インベントリに関する情報を表示する例を示します。

```

switch# show inventory fex 101

```

```

NAME: "FEX 100 CHASSIS", DESCR: "N2K-C2148T-1GE CHASSIS"
PID: N2K-C2148T-1GE , VID: V01 , SN: FOX1252GQJR

```

```

NAME: "FEX 100 Module 1", DESCR: "Fabric Extender Module: 48x1GE, 4X10GE Supervisor"
PID: N2K-C2148T-1GE , VID: V01 , SN: JAF1302ABDP

```

```

NAME: "FEX 100 Fan 1", DESCR: "Fabric Extender Fan module"
PID: N2K-C2148-FAN , VID: N/A , SN: N/A

```

■ show inventory

```
NAME: "FEX 100 Power Supply 1", DESCR: "Fabric Extender AC power supply"  
PID: N2K-PAC-200W      , VID: V01 , SN: PAC12493LQX
```

```
NAME: "FEX 100 Power Supply 2", DESCR: "Fabric Extender AC power supply"  
PID: N5K-PAC-200W      , VID: 00V0, SN: PAC12423L1Q
```

```
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show hardware internal	物理ハードウェアに関する情報を表示します。
show module	モジュールに関する情報を表示します。

show license

ライセンス情報を表示するには、**show license** コマンドを使用します。

show license [brief | default | file filename]

構文の説明	brief	(任意) デバイスにインストールされているライセンス ファイルのリストを表示します。
	default	(任意) デフォルトのライセンスを使用するサービスを表示します。
	file filename	(任意) 特定のライセンス ファイルの情報を表示します。

コマンド デフォルト インストールされているライセンスに関する情報を表示します。

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、スイッチにインストールされている特定のライセンスを表示する例を示します。

```
switch# show license file enhanced_layer2_pkg.lic
enhanced_layer2_pkg.lic:
SERVER this_host ANY
VENDOR cisco
FEATURE ENHANCED_LAYER2_PKG cisco 1.0 permanent uncounted \
        HOSTID=VDH=FOC1621R00U \
        NOTICE="<LicFileID>enhanced_layer2_pkg.lic</LicFileID><LicLineID>0</Lic
LineID> \
        <PAK></PAK>" SIGN=B9B981D2F4E2
switch#
```

次に、デバイスにインストールされているライセンス ファイルのリストを表示する例を示します。

```
switch# show license brief
enhanced_layer2_pkg.lic
switch#
```

次に、デフォルトのライセンスを使用するサービスを表示する例を示します。

```
switch# show license default
Feature                                     Default License Count
-----
FCOE_NPV_PKG                               -
FM_SERVER_PKG                               -
ENTERPRISE_PKG                              -
FC_FEATURES_PKG                             -
VMFEX_FEATURE_PKG                           -
ENHANCED_LAYER2_PKG                         -
-----
switch#
```

次に、デバイスにインストールされているすべてのライセンスを表示する例を示します。

```
switch# show license
l3.lic:
SERVER this_host ANY
VENDOR cisco
FEATURE LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG cisco 1.0 permanent uncounted \
    HOSTID=VDH=FOC1621R00U \
    NOTICE="<LicFileID>lan_base_and_lan_enterprise_services_pkg.lic</LicFileID><LicLineID>0</LicLineID> \
    <PAK></PAK>" SIGN=F23A3CB8C826
FEATURE LAN_BASE_SERVICES_PKG cisco 1.0 permanent uncounted \
    HOSTID=VDH=FOC1621R00U \
    NOTICE="<LicFileID>lan_base_and_lan_enterprise_services_pkg.lic</LicFileID><LicLineID>1</LicLineID> \
    <PAK></PAK>" SIGN=FE0C687AF058

enhanced_layer2_pkg.lic:
SERVER this_host ANY
VENDOR cisco
FEATURE ENHANCED_LAYER2_PKG cisco 1.0 permanent uncounted \
    HOSTID=VDH=FOC1621R00U \
    NOTICE="<LicFileID>enhanced_layer2_pkg.lic</LicFileID><LicLineID>0</LicLineID> \
    <PAK></PAK>" SIGN=B9B981D2F4E2

switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
install license	ライセンスをインストールします。
show license host-id	ライセンスに使用するシャーシのシリアル番号を表示します。
show license usage	ライセンス使用情報を表示します。

show license host-id

ライセンスに使用するスイッチ シャーシのシリアル番号(ホスト ID)を表示するには、**show license host-id** コマンドを使用します。

show license host-id

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

シリアル番号は、例に示されているように、コロン(:)の後に表示される文字列全体です。

例

次に、ノード ロック ライセンスの要求に必要なホスト ID を表示する例を示します。

```
switch# show license host-id
License hostid: VDH=FLC12300568
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
install license	ライセンスをインストールします。
show license	ライセンス情報を表示します。
show license usage	ライセンス使用情報を表示します。

show license usage

ライセンス使用情報を表示するには、**show license usage** コマンドを使用します。

show license usage [*PACKAGE*]

構文の説明

PACKAGE (任意)指定したライセンス パッケージで使用中の、ライセンスされた機能のリストを表示します。

コマンド デフォルト

スイッチでのライセンスの使用状況を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、現在のライセンス使用に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show license usage
Feature                               Ins  Lic  Status Expiry Date Comments
                                Count
-----
FCOE_NPV_PKG                          No   -   Unused          Grace 119D 22H
FM_SERVER_PKG                          No   -   Unused          -
ENTERPRISE_PKG                         No   -   Unused          Grace 109D 0H
FC_FEATURES_PKG                        No   -   Unused          Grace 119D 23H
VMFEX_FEATURE_PKG                      No   -   In use          Grace 106D 19H
ENHANCED_LAYER2_PKG                    No   -   In use          Grace 72D 0H
-----
switch#
```

表 1 に、**show license usage** コマンドの出力で使用されている各列について説明します。

表 1 *show license usage* で出力される列

カラム	説明
Feature	ライセンス パッケージの名前
Ins	ライセンスのインストール状況。「No」は、ライセンスがインストールされていないことを示します。「Yes」は、ライセンスがインストールされていることを示します。
Lic Count	ライセンス数。「-」は、そのライセンス パッケージでライセンス数が使用されないことを示します。このフィールドに示される数値は、機能によって現在使用されているライセンスの数です。このフィールドはサポートされていません。

表 1 show license usage で出力される列 (続き)

カラム	説明
Status	ライセンスの状況。「Unused」は、ライセンスを必要とする機能が1つもイネーブルになっていないことを示します。「In use」は、1つ以上の機能がライセンスを使用中であることを示します。
Expiry Date	ライセンスの有効期限。ライセンスがインストールされていない場合、このフィールドは空白になります。ライセンスがインストールされている場合は、ライセンスに期限がないことを示す「Never」か、ライセンスの有効期限日がこのフィールドに表示されます。
Comments	追加情報。「Grace」および日単位(D)と時間単位(H)の残り期間は、評価用ライセンスを使用していることを示します。「license missing」は、エラーが発生していることを示します。

次に、特定のライセンスで使用中の機能のリストを表示する例を示します。

```
switch# show license usage FC_FEATURES_PKG
Application
-----
PFM
-----
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
install license	ライセンスをインストールします。
show license	ライセンス情報を表示します。
show license host-id	ライセンスに使用するシャーシのシリアル番号を表示します。

show line

端末ポート設定情報を表示するには、**show line** コマンドを使用します。

show line [console [user-input-string]]

構文の説明

console	(任意) コンソール ポートの設定に関する情報だけを表示します。
user-input-string	(任意) ユーザ入力初期化ストリングを表示します。

コマンド デフォルト

端末ポートの設定に関する情報を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、端末ポート設定に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show line
line Console:
  Speed:          115200 baud
  Databits:       8 bits per byte
  Stopbits:       2 bit(s)
  Parity:         none
  Modem In:       Disable
  Modem Init-String -
    default : ATE0Q1&D2&C1S0=1\015

line Aux:
  Speed:          9600 baud
  Databits:       8 bits per byte
  Stopbits:       1 bit(s)
  Parity:         none
  Modem In:       Disable
  Modem Init-String -
    default : ATE0Q1&D2&C1S0=1\015
  Hardware Flowcontrol: ON
```

switch#

次に、コンソール ポート設定に関する情報だけを表示する例を示します。

```
switch# show line console
line Console:
  Speed:          115200 baud
  Databits:       8 bits per byte
  Stopbits:       2 bit(s)
  Parity:         none
  Modem In:       Disable
```

```
Modem Init-String -
  default : ATE0Q1&D2&C1S0=1\015
```

```
switch#
```

次に、モデムのユーザ入力初期化ストリングを表示する例を示します。

```
switch# show line console user-input-string
Console's user-input string is ATE0Q1&D2&C1S0=3\015
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソールポート コンフィギュレーションモードを開始します。

show module

モジュール情報を表示するには、**show module** コマンドを使用します。

show module [*module-number* | **fex** [*chassis_ID* | **all**]]

構文の説明

<i>module-number</i>	(任意)モジュール番号を指定します。有効値は 1 ~ 3 です。
fex	(任意)接続されているファブリック エクステンダ装置に関する情報を表示します。
<i>chassis_ID</i>	(任意)ファブリック エクステンダ シャーシ ID。シャーシ ID の範囲は、100 ~ 199 です。
all	(任意)接続されているすべてのファブリック エクステンダ装置に関する情報を表示します。

コマンド デフォルト

スイッチ シャーシのすべてのモジュールに関するモジュール情報を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、シャーシのすべてのモジュールに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show module
Mod Ports Module-Type Model Status
-----
0 0 Norcal 384 Supervisor N6K-C6004-96Q-SUP active *
1 48 Norcal Ethernet Module N6K-C6004-M12Q-FIX ok

Mod Sw Hw World-Wide-Name(s) (WWN)
---
0 6.0(2)N1(1) 1.0 --
1 6.0(2)N1(1) 1.0 --

Mod MAC-Address(es) Serial-Num
---
0 547f.eea6.f648 to 547f.eea6.f667 FOC16192WJZ
1 a44c.11e7.c450 to a44c.11e7.c45f FOC16191MQ1
switch#
```

次に、特定のモジュールの情報を表示する例を示します。

```
switch# show module 1
Mod Ports Module-Type Model Status
-----
1 48 Norcal Ethernet Module N6K-C6004-M12Q-FIX ok

Mod Sw Hw World-Wide-Name(s) (WWN)
---
-----
```

```

1      6.0(2)N1(1)      1.0      --

Mod   MAC-Address(es)                               Serial-Num
----  -
1     a44c.11e7.c450 to a44c.11e7.c45f           FOC16191MQ1
switch#

```

次に、接続されたファブリック エクステンダに関する情報を表示する例を示します。

```

switch# show module fex 111
FEX Mod Ports Card Type                               Model                               Status
-----
111 1   48   Fabric Extender 48x1GE + 4x10G Module  N2K-C2248TP-1GE   present

FEX Mod Sw           Hw           World-Wide-Name(s) (WWN)
-----
111 1   6.0(2)N1(1)     4.3         --

FEX Mod   MAC-Address(es)                               Serial-Num
-----
111 1     a456.300b.0140 to a456.300b.016f           SSI15450FZSswitch#
6.0(2)N1(1)

```

次に、接続されているすべてのファブリック エクステンダ装置を表示する例を示します。

```

switch# show module fex all
FEX Mod Ports Card Type                               Model                               Status
-----
111 1   48   Fabric Extender 48x1GE + 4x10G Module  N2K-C2248TP-1GE   present

FEX Mod Sw           Hw           World-Wide-Name(s) (WWN)
-----
111 1   6.0(2)N1(1)     4.3         --

FEX Mod   MAC-Address(es)                               Serial-Num
-----
111 1     a456.300b.0140 to a456.300b.016f           SSI15450FZS
switch#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show hardware internal	物理ハードウェアに関する情報を表示します。
show inventory	ハードウェア インベントリ情報を表示します。

show processes

スイッチのプロセス情報を表示するには、**show processes** コマンドを使用します。

show processes

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

スイッチで実行中のすべてのプロセスの情報を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、デバイスのプロセス情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes
```

PID	State	PC	Start_cnt	TTY	Process
1	S	b7f9e468	1	-	init
2	S	0	1	-	ksoftirqd/0
3	S	0	1	-	desched/0
4	S	0	1	-	events/0
5	S	0	1	-	khelper
10	S	0	1	-	kthread
18	S	0	1	-	kacpid
169	S	0	1	-	kblockd/0
182	S	0	1	-	khubd
247	S	0	1	-	pdflush
248	S	0	1	-	pdflush
249	S	0	1	-	kswapd0
250	S	0	1	-	aio/0
251	S	0	1	-	SerrLogKthread
809	S	0	1	-	kide/0
812	S	0	1	-	ata/0
817	S	0	1	-	mtdblockd
845	S	0	1	-	scsi_eh_0
846	S	0	1	-	usb-storage
1362	S	0	1	-	kjournald
1370	S	0	1	-	kjournald
2127	S	0	1	-	jffs2_gcd_mtd2
2184	S	0	1	-	kjournald
2644	S	b7f8718e	1	-	portmap
2653	S	0	1	-	nfsd
2654	S	0	1	-	nfsd
2655	S	0	1	-	nfsd
2656	S	0	1	-	nfsd
2657	S	0	1	-	nfsd
2658	S	0	1	-	nfsd

```

2659      S          0          1      -  nfsd
2660      S          0          1      -  nfsd
2661      S          0          1      -  lockd
2662      S          0          1      -  rpciod
2667      S b7f89468          1      -  rpc.mountd
2673      S b7f89468          1      -  rpc.statd
2700      S b7df3468          1      -  sysmgr
3344      S          0          1      -  mping-thread
3511      S          0          1      -  insmod
3892      S b7f4b468          1      -  xinetd
3893      S b7f89468          1      -  tftpd
--More--
switch#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show processes cpu	プロセスの CPU 使用率情報を表示します。
show processes log	プロセス ログの内容を表示します。
show processes memory	プロセスのメモリ割り当て情報を表示します。

show processes cpu

デバイス上のプロセスの CPU 使用率情報を表示するには、**show processes cpu** コマンドを使用します。

show processes cpu

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ローカル デバイスのすべてのプロセスの情報を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、プロセスの CPU 使用率情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes cpu
```

PID	Runtime(ms)	Invoked	uSecs	1Sec	Process
1	1802	22973	78	0.0%	init
2	440	44555	9	0.0%	ksoftirqd/0
3	79	17021	4	0.0%	desched/0
4	2097	92976	22	0.0%	events/0
5	71	3224	22	0.0%	khelper
10	0	18	20	0.0%	kthread
18	0	2	2	0.0%	kacpid
169	5	669	8	0.0%	kblockd/0
182	121	42	2885	0.0%	khubd
247	0	2	1	0.0%	pdflush
248	326	20427	15	0.0%	pdflush
249	0	1	4	0.0%	kswapd0
250	0	2	1	0.0%	aio/0
251	0	1	1	0.0%	SerrLogKthread
809	0	2	1	0.0%	kide/0
812	0	2	1	0.0%	ata/0
817	0	1	3	0.0%	mtdblockd
845	0	1	6	0.0%	scsi_ah_0
846	132	36789	3	0.0%	usb-storage
1362	0	1	8	0.0%	kjournald
1370	0	1	5	0.0%	kjournald
2127	367	56	6560	0.0%	jffs2_gcd_mtd2
2184	20	743	27	0.0%	kjournald
2644	0	21	38	0.0%	portmap
2653	0	42	14	0.0%	nfsd
2654	0	30	2	0.0%	nfsd
2655	0	30	2	0.0%	nfsd
2656	0	30	2	0.0%	nfsd
2657	0	30	2	0.0%	nfsd

```

2658          0          30          2    0.0%  nfsd
2659          0          32          4    0.0%  nfsd
2660          0          32          3    0.0%  nfsd
2661          0           2         33    0.0%  lockd
2662          0           1           6    0.0%  rpciod
2667          0           1          71    0.0%  rpc.mountd
2673          2           5         571    0.0%  rpc.statd
2700         152        251559          0    0.0%  sysmgr
3344          0           1          22    0.0%  mping-thread
3511        1825        10196         179    0.0%  insmod
3892          12           3        4105    0.0%  xinetd
3893           3           4          843    0.0%  tftpd
--More--
switch#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show processes	スイッチのプロセス情報を表示します。
show processes log	プロセス ログの内容を表示します。
show processes memory	プロセスのメモリ割り当て情報を表示します。

show processes log

プロセス ログの内容を表示するには、**show processes log** コマンドを使用します。

show processes log [details | pid process-id]

構文の説明

details	(任意)プロセス ログにある詳細情報を表示します。
pid process-id	(任意)特定のプロセスのプロセス ログにある詳細情報を表示します。 有効なプロセス ID の範囲は 1 ~ 2147483647 です。

コマンド デフォルト

デバイス上のすべてのプロセスの情報の要約を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、プロセス ログにある情報の要約を表示する例を示します。

```
switch# show processes log
Process          PID      Normal-exit  Stack  Core  Log-create-time
-----
adjmgr           3684      N            Y      N     Mon Oct 22 02:42:36 2012
bigsurusd       3650      N            Y      N     Thu Oct 18 20:04:39 2012
bigsurusd       3656      N            Y      N     Thu Oct 18 19:32:03 2012
ethpc           3642      N            Y      N     Mon Oct 22 02:40:31 2012
fwm              3649      N            Y      N     Wed Sep 19 18:26:55 2012
fwm              3655      N            Y      N     Tue Sep 18 21:44:49 2012
fwm              3661      N            Y      N     Wed Sep 19 12:05:50 2012
fwm              3665      N            Y      N     Tue Sep 18 19:34:38 2012
fwm              3668      N            Y      N     Wed Sep 19 20:20:14 2012
fwm              3687      N            Y      N     Fri Nov 2 22:07:54 2012
fwm              3694      N            Y      N     Sat Nov 24 00:09:58 2012
fwm              3712      N            Y      N     Fri Oct 19 18:24:14 2012
fwm              3721      N            Y      N     Thu Oct 18 19:32:53 2012
pfstat          3629      N            Y      N     Mon Oct 22 02:43:18 2012
snmpd           3741      N            Y      N     Mon Oct 22 02:42:44 2012
vlan_mgr        3874      N            Y      N     Tue Dec 18 15:25:46 2012
vsh             18527     N            N      N     Wed Oct 17 11:23:23 2012
switch#
```

次に、プロセス ログにある詳細情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes log details
=====
Service: adjmgr
Description: Adjacency Manager
Executable: /isan/bin/routing-sw/am

Started at Sun Oct 21 14:47:11 2012 (67548 us)
```

```

Stopped at Mon Oct 22 02:42:36 2012 (404404 us)
Uptime: 11 hours 55 minutes 25 seconds

Start type: SRV_OPTION_RESTART_STATELESS (23)
Death reason: SYSMGR_DEATH_REASON_FAILURE_HEARTBEAT (9)
Last heartbeat 61.08 secs ago
RLIMIT_AS: 560052518
System image name: n6000-uk9.6.0.2.N1.0.335.bin
System image version: 6.0(2)N1(0.335) S0

PID: 3729
Exit code: signal 6 (no core)

Threads: 3719 3716 3684 3717 4057 3775 3774 3766

CWD: /var/sysmgr/work

RLIMIT_AS:      560052518

Virtual Memory:

      CODE      08048000 - 08097A80
      DATA     08098A80 - 0809A308
      BRK       080C1000 - 081CA000
      STACK     7FE64370
      TOTAL     260936 KB

Memory Map: 08048000 a 08098000 a 4143F000 ld-2.8.s 41459000 ld-2.8.s 4145A000 ld-2.8.s
4145D000 libc-2.8.
s 41596000 libc-2.8.s 41598000 libc-2.8.s 4159E000 libdl-2.8.s 415A0000 libdl-2.8.s
415A1000 libdl-2.8.s 4
15BE000 libpthread-2.8.s 415D2000 libpthread-2.8.s 415D3000 libpthread-2.8.s 415D8000
libm-2.8.s 415FC000
libm-2.8.s 415FD000 libm-2.8.s 41600000 libtinfo.so.5.41615000 libtinfo.so.5.41634000
librt-2.8.s 4163B0
00 librt-2.8.s 4163C000 librt-2.8.s 41654000 libz.so.1.2.41666000 libz.so.1.2.50000000
rsw:shm:sm 531200
00 rsw:shm:a 53230000 rsw:shm:u6ri 53330000 dev/zer 54240000 rsw:shm:u6rib-notif 54860000
rsw:shm:uri 5496
0000 dev/zer 5A280000 rsw:shm:urib-redis 5B0C0000 rsw:shm:i 6C8C4000 sem.urib-api-00
6C945000 sem.u6rib-ap
i-00 6CA26000 mts 6EA26000 libmtdlutils.so.0.0.6EA27000 libmtdlutils.so.0.0.6EA28000
rwse 6EF2F000 lib
ufdmstatsapi.so.0.0.6EF30000 libufdmstatsapi.so.0.0.6EF31000 liboim.so.0.0.6EF3D000
liboim.so.0.0.6EFA
1000 libtmifdb.so.0.0.6EFA3000 libtmifdb.so.0.0.6EFA4000 libtmifdb_stub.so.0.0.6EFA6000
libtmifdb_stub.
so.0.0.6EFA7000 libncurses.so.5.6EFC4000 libncurses.so.5.6EFE4000
libsatcfg.so.0.0.6EFF1000 libsacfg.
so.0.0.6F072000 libvsh_util.so.0.0.6F077000 libvsh_util.so.0.0.6F078000
libprocjob.so.0.0.6F07E000 lib
procjob.so.0.0.6F08F000 libuspace_utils.so.0.0.6F091000 libuspace_utils.so.0.0.6F092000
libsatmgr.so.0.
0.6F09C000 libsacmgr.so.0.0.6F09D000 libsacmgr_stub.so.0.0.6F0A0000
libsacmgr_stub.so.0.0.6F0A1000 lib
pcm_sdb.so.0.0.6F0A6000 libpcm_sdb.so.0.0.6F0A7000 libethpm.so.0.0.6F0D1000
libethpm.so.0.0.6F0D6000 1
ibsviifdb.so.0.0.6F0D8000 libsviifdb.so.0.0.6F0DB000 libcrdcfgnuova.so.0.0.6F943000
libcrdcfgnuova.so.0
.0.7700C000 libpixm.so.0.0.77027000 libpixm.so.0.0.77029000 libethpm_gldb.so.0.0.7702C000
libethpm_gld
b.so.0.0.7702D000 libfsmutils.so.0.0.7702E000 libfsmutils.so.0.0.7702F000
libmcm.so.0.0.7703B000 libmc

```

```
m.so.0.0.7703D000 libqosmgr.so.0.0.77045000 libqosmgr.so.0.0.77052000
libcrack.so.2.8.77058000 libcrack
--More--
switch#
```

次に、特定のプロセスのプロセス ログにある詳細情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes log pid 3650
=====
Service: bigsurusd
Description: Bigsur user space driver
Executable: /isan/bin/bigsurusd

Started at Thu Oct 18 19:38:03 2012 (505482 us)
Stopped at Thu Oct 18 20:04:39 2012 (206756 us)
Uptime: 26 minutes 36 seconds

Start type: SRV_OPTION_RESTART_STATELESS (23)
Death reason: SYSMGR_DEATH_REASON_FAILURE_SIGNAL (2)
Last heartbeat 0.00 secs ago
RLIMIT_AS: 468996352
System image name: n6000-uk9.6.0.2.N1.0.335.bin
System image version: 6.0(2)N1(0.335) S0

PID: 3650
Exit code: signal 11 (core dumped)

CWD: /var/sysmgr/work

RLIMIT_AS:      4294967295

Virtual Memory:

      CODE      08048000 - 0843EE38
      DATA     0843F000 - 085219B8
      BRK       0C0A2000 - 0C28B000
      STACK     7FC3C7E0
      TOTAL     469344 KB

Memory Map: 08048000 bigsurus 0843F000 bigsurus 4145D000 libc-2.8.s 41596000 libc-2.8.s
41598000 libc-2.8.
s 4159E000 libdl-2.8.s 415A0000 libdl-2.8.s 415A1000 libdl-2.8.s 415BE000 libpthread-2.8.s
415D2000 libpth
read-2.8.s 415D3000 libpthread-2.8.s 415D8000 libm-2.8.s 415FC000 libm-2.8.s 415FD000
libm-2.8.s 41600000
libtinfo.so.5.41615000 libtinfo.so.5.41634000 librt-2.8.s 4163B000 librt-2.8.s 4163C000
librt-2.8.s 4165
4000 libz.so.1.2.41666000 libz.so.1.2.5F8FF000 me 618FF000 me 638FF000 me 658FF000 me
678FF000 kbigsu 67
900000 kbigsu 679A4000 kbigsu 679B9000 kbigsu 679D9000 kbigsu 679F9000 kbigsu 67A19000
kbigsu 67A39000 kbi
gsu 67A59000 kbigsu 67A79000 kbigsu 67A99000 kbigsu 67AB9000 kbigsu 67AD9000 kbigsu
67AF9000 kbigsu 67B190
00 kbigsu 67B39000 kbigsu 67B59000 kbigsu 67B79000 kbigsu 67B99000 kbigsu 67BB9000 kbigsu
67BD9000 kbigsu
67BF9000 kbigsu 67C19000 kbigsu 67C39000 kbigsu 67C59000 kbigsu 67C79000 kbigsu 67C99000
kbigsu 67CB9000 k
bigsu 67CD9000 kbigsu 67CF9000 kbigsu 67D19000 kbigsu 67D39000 kbigsu 67D59000 kbigsu
67D79000 kbigsu 67D9
9000 kbigsu 67DB9000 kbigsu 67DD9000 kbigsu 67DF9000 kbigsu 6860A000 me 6BDA8000
libsyserr-data.so.0.0.6B
EB0000 libsyserr-data.so.0.0.6BEDB000 mts 6DEDB000 libmtsdlutils.so.0.0.6DEDC000
libmtsdlutils.so.0.0.6
```

```

E5E8000 liboim.so.0.0.6E5F4000 liboim.so.0.0.6E658000 libtmifdb.so.0.0.6E65A000
libtmifdb.so.0.0.6E65B
000 libtmifdb_stub.so.0.0.6E65D000 libtmifdb_stub.so.0.0.6E65E000 libncurses.so.5.6E67B000
libncurses.s
o.5.6E69B000 libsatscfg.so.0.0.6E6A8000 libsatscfg.so.0.0.6E729000
libvsh_util.so.0.0.6E72E000 libvsh_ut
il.so.0.0.6E72F000 libprocjob.so.0.0.6E735000 libprocjob.so.0.0.6E746000
libuspace_utils.so.0.0.6E7480
00 libuspace_utils.so.0.0.6E749000 libsatsmgr.so.0.0.6E753000 libsatsmgr.so.0.0.6E754000
libsatsmgr_stub.s
o.0.0.6E757000 libsatsmgr_stub.so.0.0.6E758000 libpcm_sdb.so.0.0.6E75D000
libpcm_sdb.so.0.0.6E75E000 li
bethpm.so.0.0.6E788000 libethpm.so.0.0.6E78D000 libsviifdb.so.0.0.6E78F000
libsviifdb.so.0.0.6E792000
libpixm.so.0.0.6E7AD000 libpixm.so.0.0.6E7AF000 libethpm_gldb.so.0.0.6E7B2000
libethpm_gldb.so.0.0.6E7
B3000 libfsmutils.so.0.0.6E7B4000 libfsmutils.so.0.0.6E7B5000 libmcm.so.0.0.6E7C1000
libmcm.so.0.0.6E7
--More--
switch#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show processes	スイッチのプロセス情報を表示します。
show processes cpu	プロセスの CPU 使用率情報を表示します。
show processes memory	プロセスのメモリ割り当て情報を表示します。

show processes memory

プロセスのメモリ割り当て情報を表示するには、**show processes memory** コマンドを使用します。

show processes memory [shared [detail]]

構文の説明

shared	(任意)共有メモリの割り当てを表示します。
detail	(任意)共有メモリを、デフォルトのキロバイト単位でなく、バイト単位で表示します。

コマンド デフォルト

プロセスに割り当てられたメモリを表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、プロセスのメモリ割り当てに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes memory
```

```

PID      MemAlloc StkSize  RSSMem  LibMem  StackBase/Ptr  Process
-----
  1      147456   86016   495616  1126400 bffffea0/bffff990  init
  2           0         0         0         0         0/0             ksoftirqd/0
  3           0         0         0         0         0/0             desched/0
  4           0         0         0         0         0/0             events/0
  5           0         0         0         0         0/0             khelper
 10           0         0         0         0         0/0             kthread
 18           0         0         0         0         0/0             kacpid
169           0         0         0         0         0/0             kblockd/0
182           0         0         0         0         0/0             khubd
247           0         0         0         0         0/0             pdflush
248           0         0         0         0         0/0             pdflush
249           0         0         0         0         0/0             kswapd0
250           0         0         0         0         0/0             aio/0
251           0         0         0         0         0/0             SerrLogKthread
809           0         0         0         0         0/0             kide/0
812           0         0         0         0         0/0             ata/0
817           0         0         0         0         0/0             mtblockd
845           0         0         0         0         0/0             scsi_eh_0
846           0         0         0         0         0/0             usb-storage
1362          0         0         0         0         0/0             kjournald
1370          0         0         0         0         0/0             kjournald
2127          0         0         0         0         0/0             jffs2_gcd_mtd2
2184          0         0         0         0         0/0             kjournald
2644      155648   86016   438272  1216512 bffffdf0/bffffcf0  portmap
--More--
switch#
```

次に、プロセスの共有メモリの割り当てに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes memory shared
Component          Shared Memory      Size      Used  Available  Reference
                   Address      (kbytes)  (kbytes)  (kbytes)  Count
smm                0X60000000        1024         3       1021        21
cli                0X60110000       30720*      13982    16738         6
npacl              0X61F20000        4096*         1       4095         1
u6rib-ufdm        0X62330000         320*        188        132         1
am                 0X62390000        1024*         13       1011         4
urib               0X624A0000       32768*       700     32068        11
urib-redis        0X644B0000        4096*         0       4096        11
icmpv6            0X648C0000        1024         0       1024         1
u6rib              0X649D0000      16384*       665    15719         5
urib-ufdm         0X659E0000        2048*         0       2048         1
ip                 0X65BF0000        2048         68     1980         10
u6rib-notify      0X65E00000        2048*       795     1253         5
ipv6               0X66010000        1024         59       965          3
igmp               0X66120000        1024         0       1024         1
Shared memory totals - Size: 98 MB, Used: 17 MB, Available: 82 MB
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show processes	スイッチのプロセス情報を表示します。
show processes cpu	プロセスの CPU 使用率情報を表示します。
show processes log	プロセス ログの内容を表示します。

show running-config

実行コンフィギュレーションを表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。

show running-config [all]

構文の説明

all	(任意)デフォルトの情報およびユーザが設定した情報をすべて表示します。
------------	-------------------------------------

コマンド デフォルト

ユーザが設定した情報だけを表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、ユーザが実行コンフィギュレーションに加えた変更を表示する例を示します。

```
switch# show running-config

!Command: show running-config
!Time: Tue Jan 8 19:49:33 2013

version 6.0(2)N1(1)
interface breakout slot 1 port 1-12 map 10g-4x

install feature-set fabricpath
hostname agg-sw0

feature telnet
feature tacacs+
cfs eth distribute
feature ospf
feature ospfv3
feature pim
feature private-vlan
feature port-security
feature udd
feature interface-vlan
feature dot1x
feature hsrp
feature lacp
feature cts
cts role-based access-list c1_deny_all
  deny tcp
  deny udp
  deny all
feature vpc
feature llqp
```

```

logging level dot1x 3
username admin password 5 $1$jqhHivzm$jZ9Ezv2pYOTgUzMy1RvPC.role network-admin
username ul password 5 ! role network-operator
no password strength-check

banner motd #Nexus 6000 Switch
#

ip domain-lookup
aaa group server radius aaa-private-sg
logging event link-status default
errdisable recovery interval 30
errdisable recovery cause uidd
ip access-list copp-system-acl-bgp
 10 permit tcp any gt 1024 any eq bgp
 20 permit tcp any eq bgp any gt 1024
ipv6 access-list copp-system-acl-bgp6
 10 permit tcp any gt 1024 any eq bgp
--More--

```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
show running-config diff	実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示します。
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。

show running-config diff

実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示するには、`show running-config diff` コマンドを使用します。

show running-config diff

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

表 2 では、コマンド出力で使用される表記法を説明しています。

表 2 show running-config diff の表記法

表記法	説明
***** — line1, line2 — *** line1, line2 ****	差異を含む行の範囲を示します。アスタリスク(*)が示す範囲の行はスタートアップ コンフィギュレーションの行で、ダッシュ(-)が示す範囲の行はスタートアップ コンフィギュレーションの行です。
+ text	この行が、実行コンフィギュレーションにはあるが、スタートアップ コンフィギュレーションにはないことを示します。
- text	この行が、実行コンフィギュレーションにはないが、スタートアップ コンフィギュレーションにはあることを示します。
! text	この行が両方のコンフィギュレーションにあるが、順番が異なっていることを示します。

例

次に、実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションとの差異を表示する例を示します。

```
switch# show running-config diff
*** Startup-config
--- Running-config
*****
*** 1874,1883 ****
--- 1873,1883 ----
    system cores tftp://192.168.2.5/tftpboot/ vrf management
    vsan database
        vsan 700
    cfs eth distribute
```

```

fcdomain fcid database
+ vsan 700 wwn 10:00:00:00:00:15:43:e8 fcid 0x350000 dynamic
  vsan 1 wwn 20:44:00:0d:ec:b0:fc:40 fcid 0x780000 dynamic
  vsan 1 wwn 20:43:00:0d:ec:b0:fc:40 fcid 0x780001 dynamic
  vsan 1 wwn 24:01:00:0d:ec:b0:fc:40 fcid 0x780002 dynamic

interface Vlan1
*****
*** 2089,2103 ****
--- 2089,2113 ----
  priority-flow-control mode on
  speed 1000
  flowcontrol receive on
  service-policy type qos input 1

+ interface port-channel1932
+ shutdown
+ switchport mode trunk
+ switchport trunk allowed vlan 600
+ spanning-tree bpdufilter enable
+ speed 10000
+
interface vfc1

interface vfc199
  bind mac-address 00:00:11:11:22:22
+ fcoe fcf-priority 1
  no shutdown
+ vsan database
+ vsan 700 interface vfc199

interface fc3/1

interface fc3/2

--More--
switch#

```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
show running-config	実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示します。
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。

show sprom

スイッチのシリアル PROM (SPROM) の内容を表示するには、**show sprom** コマンドを使用します。

```
show sprom {all | backplane | fex {chassis_ID {all | backplane | powersupply ps-num} | all} |
module module-number | powersupply ps-num | sup}
```

構文の説明

all	物理デバイス上にあるすべてのコンポーネントの SPROM の内容を表示します。
backplane	バックプレーンの SPROM の内容を表示します。
fex	接続されているファブリック エクステンダ ユニットに関する情報を表示します。
<i>chassis_ID</i>	(任意) ファブリック エクステンダ シャーシ ID。シャーシ ID の範囲は、100 ~ 199 です。
module <i>module-number</i>	I/O モジュールの SPROM の内容を表示します。有効なモジュール番号の範囲は 1 ~ 3 です。
powersupply <i>ps-num</i>	電源モジュール番号の SPROM の内容を表示します。有効な電源モジュール番号は 1 または 2 です。コマンドの電力の単位はセンチアンペアで表示されます。
sup	アクティブなスーパーバイザ モジュールの SPROM の内容を表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

スイッチの SPROM には、シリアル番号、部品番号、リビジョン番号を含む、ハードウェアの詳細情報が含まれます。システム コンポーネントの問題を報告する必要がある場合は、**show sprom** コマンドを使用してシリアル番号情報を抽出できます。

例

次に、物理デバイス上のすべてのコンポーネントの SPROM 情報を表示する例を示します。

```
switch# show sprom all
DISPLAY backplane sprom contents:
Common block:
Block Signature : 0xabab
Block Version   : 3
Block Length    : 160
Block Checksum  : 0x16af
EEPROM Size     : 65535
Block Count     : 4
```

```

FRU Major Type : 0x6001
FRU Minor Type : 0x0
OEM String      : Cisco Systems, Inc.
Product Number  : N6K-C6004-96Q
Serial Number   : FOC1621XXXX
Part Number     : 68-4623-01
Part Revision   : 13
Mfg Deviation   : 0
H/W Version    : 0.0
Mfg Bits       : 0
Engineer Use    : 0
snmpOID        : 9.12.3.1.3.1237.0.0
Power Consump  : 0
RMA Code       : 0-0-0-0
CLEI Code      : 0000000000
VID            : V00
Chassis specific block:
Block Signature : 0x6001
Block Version   : 3
Block Length    : 39
Block Checksum  : 0x4c7
Feature Bits    : 0x0
HW Changes Bits : 0x0
Stackmib OID    : 0
MAC Addresses   : 54-7f-ee-a2-f2-40
Number of MACs  : 64
OEM Enterprise  : 0
OEM MIB Offset  : 0
MAX Connector Power: 8000
WWN software-module specific block:
Block Signature : 0x6005
Block Version   : 1
Block Length    : 0
Block Checksum  : 0x66
wnn usage bits:
00 00 00 00 00 00 00 00
00 00 00 00 00 00 00 00
00 00 00 00 00 00 00 00
--More--
switch#

```

次に、バックプレーンの SPROM 情報を表示する例を示します。

```

switch# show sprom backplane
DISPLAY backplane sprom contents:
Common block:
Block Signature : 0xabab
Block Version   : 3
Block Length    : 160
Block Checksum  : 0x16af
EEPROM Size     : 65535
Block Count     : 4
FRU Major Type  : 0x6001
FRU Minor Type  : 0x0
OEM String      : Cisco Systems, Inc.
Product Number  : N6K-C6004-96Q
Serial Number   : FOC1621R00U
Part Number     : 68-4623-01
Part Revision   : 13
Mfg Deviation   : 0
H/W Version    : 0.0
Mfg Bits       : 0
Engineer Use    : 0
snmpOID        : 9.12.3.1.3.1237.0.0

```

```

Power Consump      : 0
RMA Code           : 0-0-0-0
CLEI Code          : 0000000000
VID                : V00
Chassis specific block:
Block Signature    : 0x6001
Block Version      : 3
Block Length       : 39
Block Checksum     : 0x4c7
Feature Bits       : 0x0
HW Changes Bits    : 0x0
Stackmib OID       : 0
MAC Addresses      : 54-7f-ee-a6-f6-40
Number of MACs     : 64
OEM Enterprise     : 0
OEM MIB Offset     : 0
MAX Connector Power: 8000
WWN software-module specific block:
Block Signature    : 0x6005
Block Version      : 1
Block Length       : 0
Block Checksum     : 0x66
wwn usage bits:
00 00 00 00 00 00 00 00
00 00 00 00 00 00 00 00
00 00 00 00 00 00 00 00
00 00 00 00 00 00 00 00
00 00 00 00 00 00 00 00
00 00 00 00 00 00 00 00
00 00 00 00 00 00 00 00
00 00 00 00 00 00 00 00
--more--
switch#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show hardware internal	物理ハードウェアに関する情報を表示します。
show inventory	ハードウェア インベントリ情報を表示します。

show startup-config

スタートアップ コンフィギュレーションを表示するには、**show startup-config** コマンドを使用します。

show startup-config

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、スタートアップ コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show startup-config
!Command: show startup-config
!Time: Tue Jan  8 20:58:03 2013
!Startup config saved at: Fri Jan  4 16:37:26 2013

version 6.0(2)N1(1)
interface breakout slot 1 port 1-12 map 10g-4x

install feature-set fabricpath
hostname agg-sw0

feature telnet
feature tacacs+
cfs eth distribute
feature ospf
feature ospfv3
feature pim
feature private-vlan
feature port-security
feature udld
feature interface-vlan
feature dot1x
feature hsrp
feature lacp
feature cts
cts role-based access-list c1_deny_all
  deny tcp
  deny udp
  deny all
feature vpc
feature lldp
```

```

logging level dot1x 3
username admin password 5 $1$jqhHivzm$jZ9Ezv2pYOTgUzMy1RvPC.role network-admin
username ul password 5 ! role network-operator
no password strength-check

banner motd #Nexus 6000 Switch
#

ip domain-lookup
aaa group server radius aaa-private-sg
logging event link-status default
errdisable recovery interval 30
errdisable recovery cause uuld
ip access-list copp-system-acl-bgp
 10 permit tcp any gt 1024 any eq bgp
 20 permit tcp any eq bgp any gt 1024
ipv6 access-list copp-system-acl-bgp6
 10 permit tcp any gt 1024 any eq bgp
 20 permit tcp any eq bgp any gt 1024
ip access-list copp-system-acl-cts
 10 permit tcp any any eq 64999
-

```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。
show running-config diff	実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示します。

show switchname

デバイスのホスト名を表示するには、**show switchname** コマンドを使用します。

show switchname

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show hostname コマンドでも、スイッチのホスト名が表示されます。

例

次に、スイッチのホスト名を表示する例を示します。

```
switch# show switchname
```

関連コマンド

コマンド	説明
hostname	スイッチのホスト名を設定します。
show hostname	ホスト名を表示します。
switchname	スイッチのホスト名を設定します。

show system cores

コア ファイル名を表示するには、**show system cores** コマンドを使用します。

show system cores

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド 履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

システム コア ファイル名を設定するには、**system cores** コマンドを使用します。

例

次に、システム コア ファイルの宛先情報を表示する例を示します。

```
switch# show system cores
Cores are transferred to tftp://192.168.2.5/tftpboot/
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
system cores	システム コア ファイル名を設定します。

show system reset-reason

スイッチのリセット履歴を表示するには、**show system reset-reason** コマンドを使用します。

show system reset-reason [fex chassis_ID]

構文の説明	fex chassis_ID	(任意)ファブリック エクステンダ シャーシ ID を指定します。シャーシ ID の範囲は、100 ~ 199 です。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、スイッチのリセット理由の履歴を表示する例を示します。

```
switch# show system reset-reason
----- reset reason for Supervisor-module 1 (from Supervisor in slot 1) ---
1) At 907240 usecs after Mon Jan  7 20:55:27 2013
   Reason: Reset Requested by CLI command reload
   [Service]:
   Version: 6.0(2)N1(1)

2) At 709569 usecs after Mon Jan  7 19:38:20 2013
   Reason: Reset Requested by CLI command reload
   [Service]:
   Version: 6.0(2)N1(1)

3) At 439120 usecs after Mon Jan  7 18:21:43 2013
   Reason: Reset Requested by CLI command reload
   [Service]:
   Version: 6.0(2)N1(1)

4) At 286007 usecs after Mon Jan  7 16:49:42 2013
   Reason: Reset Requested by CLI command reload
   [Service]:
   Version: 6.0(2)N1(1)

switch#
```

次に、接続されているファブリック エクステンダのリセット理由の履歴を表示する例を示します。

```
switch# show system reset-reason fex 100
----- reset reason for FEX 100 ---

1) At 0 usecs after Unknown time
   Reset Reason: Unknown (0)
   Service (Additional Info):
   Image Version: 4.2(1)N2(1)
```

```
2) At 0 usecs after Unknown time
   Reset Reason: Unknown (0)
   Service (Additional Info):
   Image Version: 4.2(1)N2(1)

3) At 713709 usecs after Fri Jul  9 18:36:32 2010
   Reset Reason: Reset due to upgrade (88)
   Service (Additional Info): Reset due to upgrade
   Image Version: 4.2(1)N1(1)

4) At 702748 usecs after Fri Jul  9 05:27:06 2010
   Reset Reason: Reset due to upgrade (88)
   Service (Additional Info): Reset due to upgrade
   Image Version: 4.2(1)N2(1)

switch#
```

show system resources

システム リソースを表示するには、**show system resources** コマンドを使用します。

show system resources

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

任意のコマンド モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

次に、システム リソースを表示する例を示します。

```
switch(config)# show system resources
Load average:  1 minute: 1.56   5 minutes: 0.96   15 minutes: 0.91
Processes   :  401 total, 2 running
CPU states  :  10.1% user,   12.9% kernel,   77.0% idle
Memory usage: 8248484K total,  3381644K used,  4866840K free

switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show processes cpu	デバイスのプロセスに対する CPU 使用率の情報を表示します。

show system uptime

最後にシステムを再起動してから経過した時間を表示するには、**show system uptime** コマンドを使用します。

show system uptime

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、最後にシステムを再起動した後に経過した時間を表示する例を示します。

```
switch# show system uptime
System start time:      Mon Jul 12 01:37:08 2010
System uptime:         1 days, 4 hours, 42 minutes, 19 seconds
Kernel uptime:        1 days, 4 hours, 44 minutes, 19 seconds
Active supervisor uptime: 1 days, 4 hours, 42 minutes, 19 seconds
switch#
```

show tech-support

シスコ テクニカル サポートの情報を表示するには、**show tech-support** コマンドを使用します。

show tech-support [brief | commands | feature]

構文の説明	
brief	(任意) デバイスのステータスに関する情報だけを表示します。
commands	(任意) show tech-support コマンドによって実行されるコマンドの完全なリストを表示します。
<i>feature</i>	(任意) 特定の機能名を指定します。機能のリストを表示するには、コマンドライン インターフェイス (CLI) 状況依存ヘルプ (show tech-support ? など) を使用します。

コマンド デフォルト すべての機能の情報を表示します。

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **show tech-support** コマンドの出力は非常に長くなります。この出力を効率よく処理するには、ローカルの書き込み可能なストレージ、またはリモート ファイル システムで、この出力をファイルにリダイレクトします (たとえば、**show tech-support > filename**)。

リダイレクトには、次のいずれかの方法を使用できます。

- **> filename**: 出力をファイルにリダイレクトします。
- **>> filename**: 出力をファイルに、アペンド モードでリダイレクトします。

例 次に、テクニカル サポートの情報を表示する例を示します。

```
switch# show tech-support
---- show tech-support ----
`show switchname`
switch
`show system uptime`
System start time:          Mon Jul 12 01:37:08 2010
System uptime:             1 days, 4 hours, 42 minutes, 53 seconds
Kernel uptime:            1 days, 4 hours, 44 minutes, 54 seconds
Active supervisor uptime:  1 days, 4 hours, 42 minutes, 53 seconds
`show interface mgmt0`
mgmt0 is up
  Hardware: GigabitEthernet, address: 000d.ece7.df40 (bia 000d.ece7.df40)
  Internet Address is 192.168.1.215/24
  MTU 1500 bytes, BW 1000000 Kbit, DLY 10 usec,
    reliability 255/255, txload 1/255, rxload 1/255
  Encapsulation ARPA
```

```

full-duplex, 1000 Mb/s
1 minute input rate 5408 bits/sec, 4 packets/sec
1 minute output rate 1320 bits/sec, 1 packets/sec
Rx
 465934 input packets 311703 unicast packets 73820 multicast packets
 80411 broadcast packets 250277048 bytes
Tx
 158490 output packets 155374 unicast packets 1725 multicast packets
 1391 broadcast packets 13184030 bytes

`show system resources`
Load average:  1 minute: 2.28   5 minutes: 1.77   15 minutes: 1.30
--More--
switch#

```

次に、テクニカル サポートの情報をファイルにリダイレクトする例を示します。

```
switch# show tech-support > bootflash:TechSupport.txt
```

次に、特定の機能のテクニカル サポート情報を表示する例を示します。

```

switch# show tech-support aaa
`show running-config aaa all`

!Command: show running-config aaa all
!Time: Tue Jan  8 21:06:25 2013

version 6.0(2)N1(1)
aaa authentication login default local
aaa authorization ssh-publickey default local
aaa authorization ssh-certificate default local
aaa authorization config-commands default local
aaa authorization commands default local
aaa authorization config-commands console local
aaa authorization commands console local
aaa accounting default local
aaa user default-role
aaa authentication login default fallback error local
aaa authentication login console fallback error local
no aaa authentication login error-enable
no aaa authentication login mschap enable
no aaa authentication login mschapv2 enable
no aaa authentication login chap enable
no aaa authentication login ascii-authentication
no radius-server directed-request
no tacacs-server directed-request

`show system internal aaa event-history msgs`

1) Event:E_MTS_RX, length:60, at 403880 usecs after Tue Jan  8 21:06:25 2013
 [REQ] Opc:MTS_OPC_SDWRAP_DEBUG_DUMP(1530), Id:0X099A0F66, Ret:SUCCESS
 Src:0x00001201/20407, Dst:0x00001201/111, Flags:None
 HA_SEQNO:0X00000000, RRtoken:0x099A0F66, Sync:UNKNOWN, Payloadsize:216
 Payload:
 0x0000:  01 00 2f 74 6d 70 2f 64 62 67 64 75 6d 70 32 39

```

```
2) Event:E_MTS_RX, length:60, at 367644 usecs after Tue Jan 8 21:06:25 2013
   [NOT] Opc:MTS_OPC_VSH_ACFG_GEN(7663), Id:0X099A0EAD, Ret:SUCCESS
   Src:0x00001201/20406, Dst:0x00001201/111, Flags:None
   HA_SEQNO:0X00000000, RRtoken:0x00000000, Sync:UNKNOWN, Payloadsize:7108
   Payload:
   0x0000: b6 4f 00 00 00 02 00 00 ff ff ff ff ff ff ff ff

3) Event:E_MTS_TX, length:48, at 162674 usecs after Tue Jan 8 21:06:25 2013
   [RSP] Opc:MTS_OPC_ACCOUNTING_START_SESSION(150), Id:0X099A0CBA, Ret:SUCCESS
   Src:0x00001201/182, Dst:0x00001201/20404, Flags:None
   HA_SEQNO:0X00000000, RRtoken:0x099A0CB9, Sync:UNKNOWN, Payloadsize:4
   Payload:
   0x0000: 00 00 00 00
```

```
--More--
switch#
```

次に、テクニカル サポート情報を生成するために使用するコマンドを表示する例を示します。

```
switch# show tech-support commands
```

show terminal

セッションの端末設定に関する情報を表示するには、**show terminal** コマンドを使用します。

show terminal

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、セッションの端末設定に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show terminal
TTY: /dev/pts/1 Type: "ansi"
Length: 29 lines, Width: 80 columns
Session Timeout: 0 minutes
Event Manager CLI event bypass: no
Redirection mode: ascii
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
terminal length	セッションの端末表示長を設定します。
terminal session-timeout	セッションの端末非アクティブ セッション タイムアウトを設定します。
terminal type	セッションの端末タイプを設定します。
terminal width	セッションの端末表示幅を設定します。

show version

ソフトウェア バージョンに関する情報を表示するには、**show version** コマンドを使用します。

show version [fex chassis_ID | image filename]

構文の説明	
fex chassis_ID	(任意)ファブリック エクステンダ シャーシ ID を指定します。シャーシ ID の範囲は、100 ~ 199 です。
image filename	(任意)システム イメージ ファイルまたはキックスタート イメージ ファイルのバージョン情報を表示します。

コマンド デフォルト 実行中のキックスタート イメージ ファイルおよびシステム イメージ ファイルのソフトウェア バージョン情報を表示します。

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、デバイスで実行中の、キックスタート イメージ およびシステム イメージのバージョン情報を表示する例を示します。

```
switch# show version
Cisco Nexus Operating System (NX-OS) Software
TAC support: http://www.cisco.com/tac
Documents: http://www.cisco.com/en/US/products/ps9372/tsd_products_support_series_home.html
Copyright (c) 2002-2012, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
The copyrights to certain works contained herein are owned by
other third parties and are used and distributed under license.
Some parts of this software are covered under the GNU Public
License. A copy of the license is available at
http://www.gnu.org/licenses/gpl.html.

Software
  BIOS:          version 2.6.0
  loader:        version N/A
  kickstart:     version 6.0(2)N1(1) [build 6.0(2)N1(0.368.5P)]
  system:        version 6.0(2)N1(1) [build 6.0(2)N1(0.368.5P)]
  power-seq:     Module 0: version v3.0
                  Module 1: version v2.0
  xbar-power-seq: Module 0: version v1.0
  uC:            version v1.1.0.3
  QSFP uC:       Module 1: v1.3.0.0
  BIOS compile time:      2012/11/21
  kickstart image file is: bootflash:///n6000-uk9-kickstart.6.0.2.N1.0.368.5P.bi
```

```
n.v1
kickstart compile time: 2012/12/15 4:00:00 [2012/12/27 23:45:20]
system image file is:   bootflash:///n6000-uk9.6.0.2.N1.0.368.5P.bin.v1
system compile time:   2012/12/15 4:00:00 [2013/01/02 15:26:36]
```

Hardware

```
cisco Nexus5596 Chassis ("Norcal 384 Supervisor")
Intel(R) CPU 0 @ 2.00GHz
with 8248484 kB of memory.
Processor Board ID FOC16192WJZ
```

```
Device name: agg-sw0
bootflash:   8028160 kB
```

```
Kernel uptime is 1 day(s), 0 hour(s), 15 minute(s), 44 second(s)
```

```
Last reset at 907240 usecs after Mon Jan 7 20:55:27 2013
```

```
Reason: Reset Requested by CLI command reload
System version: 6.0(2)N1(1)
[Service]:
```

plugin

```
Core Plugin, Ethernet Plugin
switch#
```



T コマンド

この章では、T で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

tail

ファイルの末尾の行を表示するには、**tail** コマンドを使用します。

```
tail [filesystem: [//server/]] [directory] filename [lines]
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意)ファイルシステムの名前を指定します。有効な値は bootflash 、 modflash 、または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意)サーバの名前を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (<i>//</i>) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意)ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	表示するファイルの名前を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>lines</i>	(任意)表示する行数を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 80 です。



(注)

filesystem://server/directory/filename 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン(:)とスラッシュ(/)で区切ります。

コマンド デフォルト

末尾の 10 行を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、ファイルの末尾の 10 行を表示する例を示します。

```
switch# tail bootflash:startup.cfg
```

次に、ファイルの末尾の 20 行を表示する例を示します。

```
switch# tail bootflash:startup.cfg 20
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
copy	ファイルをコピーします。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

terminal length

現在のセッションの端末画面で出力が一時停止する前に表示する出力行数を設定するには、**terminal length** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

terminal length lines

terminal no length

構文の説明

lines 表示する行数を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 511 です。出力の表示中に一時停止しないようにするには 0 を指定します。

コマンド デフォルト

コンソールの初期デフォルト値は 0 (出力を一時停止しない) です。仮想端末セッションの初期デフォルト値はクライアント ソフトウェアにより定義されます。**no** 形式のデフォルト値は 24 行です。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

セッションは、**terminal length** で設定された数の行を表示した後、一時停止します。次の行画面を表示するにはスペースバーを押します。または、**Enter** キーを押すと、次の行が表示されます。コマンドプロンプトに戻るには、**Ctrl+C** キーを押します。

端末の行数の設定は、現在のセッションにだけ適用されます。

例

次に、一時停止する前に端末に表示されるコマンド出力の行数を設定する例を示します。

```
switch# terminal length 28
```

次に、デフォルトの行数に戻す例を示します。

```
switch# terminal no length
```

関連コマンド

コマンド	説明
show terminal	端末セッションの設定を表示します。

terminal session-timeout

現在のセッションの端末無活動タイムアウトを設定するには、**terminal session-timeout** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

terminal session-timeout *minutes*

terminal no session-timeout

構文の説明

minutes 時間を分単位で指定します。有効値は 0 ~ 525600 分 (8760 時間) です。端末無活動タイムアウトをディセーブルにするには、0 を指定します。

コマンド デフォルト

端末セッション タイムアウトはディセーブルです (0 分)。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

端末セッション無活動タイムアウトの設定は、現在のセッションにだけ適用されます。

例

次に、セッションの端末無活動タイムアウトを 10 分に設定する例を示します。

```
switch# terminal session-timeout 10
```

次に、セッションのデフォルトの端末無活動タイムアウトに戻す例を示します。

```
switch# terminal no session-timeout
```

関連コマンド

コマンド	説明
show terminal	端末セッションの設定を表示します。

terminal terminal-type

現在のセッションの端末タイプを設定するには、**terminal terminal-type** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

terminal terminal-type *type*

terminal no terminal-type

構文の説明

type 端末のタイプを指定します。タイプ文字列は 80 文字以下で、大文字と小文字を区別します。また、有効なタイプ (ansi、vt100、または xterm など) である必要があります。

コマンド デフォルト

仮想端末の場合は、クライアント ソフトウェアとのネゴシエーション中に端末タイプが設定されます。これ以外の場合、デフォルト値は vt100 です。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

端末タイプの設定は、現在のセッションにだけ適用されます。

例

次に、端末タイプを設定する例を示します。

```
switch# terminal terminal-type xterm
```

次に、デフォルトの端末タイプに戻す例を示します。

```
switch# terminal no terminal-type
```

関連コマンド

コマンド	説明
show terminal	端末セッションの設定を表示します。

terminal width

セッションの現在の行を表示する端末画面上の文字の列数を設定するには、**terminal width** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

terminal width columns

terminal no width

構文の説明	<i>columns</i>	列の数を指定します。指定できる範囲は 24 ~ 511 です。
コマンド デフォルト	仮想端末の場合は、クライアント ソフトウェアとのネゴシエーション中に列の数が設定されます。これ以外の場合、デフォルト値は 80 列です。	
コマンド モード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	端末の列数の設定は、現在のセッションにだけ適用されます。	
例	次に、端末に表示する列の数を設定する例を示します。 <pre>switch# terminal width 70</pre> 次に、デフォルトの列数に戻す例を示します。 <pre>switch# terminal no width</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	show terminal	端末セッションの設定を表示します。

traceroute

IP アドレスに到達するまでにパケットがたどるルートを調べるには、**traceroute** コマンドを使用します。

```
traceroute {dest-addr | hostname} [vrf {vrf-name | default | management}] [source src-addr]
```

構文の説明

<i>dest-addr</i>	宛先デバイスの IP アドレスを指定します。フォーマットは、 <i>A.B.C.D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスの名前を指定します。大文字と小文字が区別されます。
vrf <i>vrf-name</i>	(任意)使用する仮想ルーティングおよびフォワーディング (VRF) を指定します。大文字と小文字が区別されます。
default	(任意)デフォルトの VRF を指定します。
management	(任意)管理 VRF を指定します。
source <i>src-addr</i>	(任意)送信元 IP アドレスを指定します。フォーマットは、 <i>A.B.C.D</i> です。デフォルトは、スイッチの管理インターフェイスの IPv4 アドレスです。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、ネットワーク デバイスへのルートを調べる例を示します。

```
switch# traceroute 192.0.255.18 vrf management
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping	別のネットワーク デバイスへのネットワーク接続性を表示します。
traceroute6	IPv6 アドレッシングを使用してデバイスへのルートを調べます。

traceroute6

IPv6 アドレスに到達するまでにパケットがたどるルートを調べるには、**traceroute6** コマンドを使用します。

```
traceroute6 {dest-addr | hostname} [vrf {vrf-name | default | management}] [source src-addr]
```

構文の説明

<i>dest-addr</i>	宛先デバイスの IPv6 アドレスを指定します。フォーマットは、 A:B::C:D です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスの名前を指定します。大文字と小文字が区別されます。
vrf <i>vrf-name</i>	(任意) 仮想ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスを指定します。名前は最大 32 文字の英数字で、大文字と小文字が区別されます。
default	(任意) デフォルトの VRF を指定します。
management	(任意) 管理 VRF を指定します。
source <i>src-addr</i>	(任意) 送信元 IPv6 アドレスを指定します。フォーマットは、 A:B::C:D です。デフォルトは、スイッチの管理インターフェイスの IPv6 アドレスです。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、デバイスへのルートを調べる例を示します。

```
switch# traceroute6 2001:0DB8::200C:417A vrf management
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping6	インターネット プロトコルバージョン 6 (IPv6) アドレッシングを使用して他のデバイスへの接続性を調べます。
traceroute	IPv4 アドレッシングを使用してデバイスへのルートを調べます。



U コマンド

この章では、U で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

update license

既存のライセンスを更新するには、**update license** コマンドを使用します。

update license [*filesystem: [//server/]*] [*directory*] *src-filename* [*target-filename*]

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意)ファイルシステムの名前を指定します。有効な値は bootflash または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意)サーバの名前を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (<i>//</i>) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意)ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>src-filename</i>	元のライセンス ファイルの名前を指定します。
<i>target-filename</i>	(任意)ターゲット ライセンス ファイルの名前を指定します。



(注) *filesystem://server/directory/filename* 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン(:)とスラッシュ(/)で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、ライセンスを更新する例を示します

```
switch# update license bootflash:fm.lic fm-update.lic
```

関連コマンド

コマンド	説明
show license	ライセンス情報を表示します。



W コマンド

この章では、W で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

write erase

固定メモリ領域内の設定を消去するには、**write erase** コマンドを使用します。

write erase [boot | debug]

構文の説明

boot	(任意)ブート設定だけを消去します。
debug	(任意)デバッグ設定だけを消去します。

コマンド デフォルト

固定メモリ内のすべての設定を消去します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
6.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

情報が破損しているなどの理由で使用できない場合は、このコマンドを使用して、固定メモリ内のスタートアップ コンフィギュレーションを消去できます。スタートアップ コンフィギュレーションを消去すると、スイッチが初期状態に戻ります。

例

次に、スタートアップ コンフィギュレーションを消去する例を示します。

```
switch# write erase
```

次に、固定メモリ内のデバッグ設定を消去する例を示します。

```
switch# write erase debug
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
show running-config	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。